

その他の乗物を起因物（小）とする死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	業種 （小） コード	事故 の型 コー ド	労働 者規 模
2022	3	12 ～ 14	教官（被災者）と訓練生は、着陸後すぐに離陸するタッチアンドゴー訓練のため、飛行機に乗り込み、空港を離陸し、その後着陸を試みたが何らかの原因で墜落して2名とも死亡したものの。	170209	18	10～ 29
2022	3	16 ～ 18	養殖ほやに取り付けていた計測機器を取り外すため、3名（漁業協同組合の労働者1名、事業場Aの労働者1名、個人事業主（船長）1名）が乗船した漁船が漁港を出港後、何らかの原因により漁船が転覆し、被災者と労働者は海上で発見され、その後、全員の死亡が確認されたもの。なお、救命胴衣は着用していた。	120109	18	10～ 29
2022	3	16 ～ 18	養殖ほやに取り付けていた計測機器を取り外すため、3名（漁業協同組合の労働者1名、事業場Aの労働者1名、個人事業主（船長）1名）が乗船した漁船が漁港を出港後、何らかの原因により漁船が転覆し、被災者と労働者は海上で発見され、その後、全員の死亡が確認されたもの。なお、救命胴衣は着用していた。	170209	18	10～ 29
2022	4	8 ～ 10	漁業監視船の操船兼監視を行う者である被災者が単独で監視船に乗船して監視業務を行っていたところ、連絡がつかなくなり、捜索によって、転覆して海上に浮いていた監視船と、海底に沈んで溺死した被災者が発見されたもの。	170209	18	100 ～ 299
2022	9	8 ～	同僚が操船する作業船（綱取り用の船）に被災者を乗せるため、起重機船に横付けしロープで固定された押船に作業船を近づけ、被災者が押船から作業船に乗船。被災者は同僚と操船を変わった後、作業船が急に前進し起重機船と押船に接触し船尾から波が侵入して転覆。同僚	030111	18	50～ 99

		10	と被災者は落水し、同僚は救助されたが、被災者は行方不明となり、後日、海上に浮かんでいるのを発見された。被災者は膨張式救命胴衣を着用していた。			
2022	11	～ 4	出航するため、被災者が船（8 t）に乗り込もうとしたところ、バランスを崩して、海に転落した。近くにいた別の船に引き上げられた際にはすでに心肺停止の状態であり、その後死亡が確認された。	070201	10	1～9
2022	12	0 ～ 2	船長（事業主）及び2名の乗組員が乗り込んだ漁船（9.7トン）で、スケトウダラ刺し網漁を行っていた。漁が終わり、船長による操船で母港に戻っていたとき、右舷側から波をかぶり機関室が浸水し、左舷側に傾いた。さらに、右舷側からの波により船が持ち上げられ転覆し、2名の乗組員が投げ出され、2名とも救出されたが1名が溺死した。いずれも救命胴衣を着用していなかった。	070201	18	1～9
2022	12	14 ～ 16	漁港へ向けて曳船を回航していたところ、沖で船尾デッキ上に浸水を確認し、ポンプにて排水を試みたものの船尾が傾き浸水沈没に至った。災害発生時、当該曳船には船長（船員法適用）及び陸上作業員（船員法非適用）各1名が乗船しており、船長は同日中に消防ヘリによって救助されたものの、陸上作業員については未だ見つからない状況である（報告日時点）。	040102	18	10～ 29
2021	2	14 ～ 16	帆立貝の耳づり作業を行うため、漁船（総トン数4.8 t）に代表を含む4名が乗船の上、漁港を出港し、1か所目の作業箇所の作業を終了し、2か所目の作業箇所へ移動中、被災者が用を足しに行くと同僚に言い、船上を移動したところ、被災者の姿が見えなくなった。その後、約50分後に被災者が海上に浮かんでいるのを、他の漁船の乗組員が発見した。	70201	10	1～9
2021	3	16 ～	中古で購入したバックホウ浚渫船の老朽化したバックホウ上部旋回体部分を解体する作業中、被災者は地上から高所作業車を使用してバックホウのブームに近接させ、高所作業車のカゴからバックホウのブームに乗り移り、解体するブームに安全帯のフックを掛け、ガス溶断作	30209	1	1～9

		18	業をしていたところ、切断したブームの落下とともに被災者も地上に墜落し、ブームの下敷きとなったもの。			
2021	3	10 ～ 12	事業場所有の作業船（定員6人）に船長である被災者（小型船舶免許有）と下請測量会社の測量士2人が乗り、沖で深淺測量中、船底に消波ブロックがぶつかり傾いたので最寄りの漁港に避難した。棧橋へ係留し測量士は棧橋へ測量機材搬出、被災者は船上で破損状況確認中に、急速に沈み始め、約10秒で沈没した。被災者は海中に吸い込まれ心肺停止で救助後、搬送先病院で当日夜死亡した。	30111	18	30～ 49
2021	3	4 ～ 6	ホタテ養殖施設にホタテ貝の耳づり作業を行うため、漁船（総トン数4.3トン）に船長及び労働者4人が乗船して漁港を出港し、当該漁港の堤防外海側付近を航行中、他の労働者が物音に気づいて後ろを振り返ったところ、椅子に座っていた被災者がいないことに気づいたため、漁船を引き返したところ、被災者が海上に仰向けの状態で浮かんでいるのを発見した。	70201	10	1～9
2021	3	8 ～ 10	岸壁に台船（500t積）を止めようとしたところ、船の位置が悪く岸壁の緩衝材と船の緩衝材が挟まるような形となって船が前へ動けなくなったため、被災者が人力で船を沖のほうへ岸壁側から押したところ足を滑らせ海へ転落し、動いた船の緩衝材と岸壁の緩衝材の間に挟まれ死亡した。	30111	7	30～ 49
2021	5	6 ～ 8	事業場の毛ガニ漁船A（9.7トン）が南東に低速で進みながら操業中、南西に進んできた外国籍の運搬船B（662トン）が左舷に衝突した。この事故で、漁船Aは転覆して乗組員5人が海に投げ出され運搬船Bに救助されたが、3人が心肺停止の状態で港に運ばれたものの死亡した。1人は軽傷（休業有）。事業主（船長）も左腕を打撲した。	70201	18	1～9
2021	5	6 ～	事業場の毛ガニ漁船A（9.7トン）が南東に低速で進みながら操業中、南西に進んできた外国籍の運搬船B（662トン）が左舷に衝突した。この事故で、漁船Aは転覆して乗組員5人が海に投げ出され運搬船	70201	18	1～9

		8	Bに救助されたが、3人が心肺停止の状態ですぐに港に運ばれたものの死亡した。1人は軽傷（休業有）。事業主（船長）も左腕を打撲した。			
2021	5	6 8	事業場の毛ガニ漁船A（9.7トン）が南東に低速で進みながら操業中、南西に進んできた外国籍の運搬船B（662トン）が左舷に衝突した。この事故で、漁船Aは転覆して乗組員5人が海に投げ出され運搬船Bに救助されたが、3人が心肺停止の状態ですぐに港に運ばれたものの死亡した。1人は軽傷（休業有）。事業主（船長）も左腕を打撲した。	70201	18	1～9
2021	7	10 12	被災者は、漁の網入れのため10.5ノットで並走する、もやいでつながられた2隻の漁船のうち、進行方向に向かって左側の漁船に乗っていた。もやいは前方、後方にあり被災者は後方のもやいを外すため右舷を船首から船尾方向に移動中、何らかの理由により2隻の船の間から海中に墜落し溺れたもの。救命胴衣は着用していた。	70201	10	10～ 29
2021	7	8 10	3艘編成でシラス漁を行っていた小型漁船は、初回の網上げが終わり運搬船が港に向かった後、網船と手船で2度目の網入れを行っていた。手船に固定されたロープと網に接続されたロープを繋ぐガチャンコと呼ばれる金具が外れ、手船の左舷側に置かれていたロープ束（網につながれているロープで全長200m）の一部とともに被災者が海に転落した。被災者は約2時間後に救助されたが病院で溺水による死亡が確認された。	70201	10	1～9
2021	8	6 8	被災者は港内において起重機船の出航を補助するための補助船に単独で乗り込み、沖に出航したが起重機船が出航してこないことから起重機船右舷に戻ってきた。補助船が繋船地点と異なる位置で後進を続けていたため、他の作業者が補助船内を確認したところ無人の状態であった。その後、岸壁から約30m離れた海底において発見され、溺水による死亡が確認された。	30111	10	30～ 49
2021	9	14	木造の舟（全長12m）に乗客を乗せて川下りをしていたところ、船尾で舵を取っていた被災者が空櫂の反動により舟から転落して川に落ち、その後行方不明となった。（令和4年3月末現在においても行方	40102	10	10～ 29

		16 不明)				
2021	9	6 ～ 8	漁港沖合約5 kmの海上において、事業場所有の漁船がシラス漁のため、漁場まで航行中、岩場に座礁、漁船の操舵室内にいた乗員2名が座礁による大きな揺れが原因で操舵室内において身体及び頭部を打ち付け負傷したもの。	70201	18	1～9
2021	11	4 ～ 6	沖合を航行中のセメント運搬用の貨物船が、漁場へ航行中のサンゴ漁船（全長10.5メートル、総トン数4.9トン）に衝突し、転覆したサンゴ漁船の乗組員2名の内1名が死亡した。	70201	18	1～9
2021	11	6 ～ 8	ナマコ漁のため、漁船（総トン数4.9t）に代表者を含む3名が乗船の上、漁港を出港し、作業海域で、1回目の雑けた網（約263キログラム）の投入回収等の作業を終え、2回目の雑けた網の投入作業中、雑けた網のワイヤーと一緒に船上から海に転落した。その10分後に同僚労働者に引き上げられた。	70201	10	1～9
2021	12	10 ～ 12	被災者と船の運転者の2名で、しゅんせつ工事によって発生した土砂を船で所定の処分場へ捨てに行く作業を行っていた。土砂を捨て終え、船は工事現場まで戻ってきたが、被災者が船から出てこないため元請職員らが確認したところ、被災者が船上でうつ伏せに倒れていた。	30107	2	1～9
2020	2	10 ～ 12	橋梁架設工事現場において、被災者は、掘削土を運搬する土運船（台船）に乗り、作業構台へ係留するために、作業構台側の労働者から係留用ロープを受け取ろうとしていた。土運船は、曳行船に引っ張られ航行する。その際、土運船が作業構台に衝突したことにより、衝撃で被災者が落水し、土運船と作業構台の間に胸部を挟まれた。	30105	1	1～9
2020	3	22 ～ 24	被災者は、漁船の投籠のために他の乗組員とともに乗船し、漁場へと向かっていた。漁場へと近づいたため、他の乗組員は乗船していた漁船の看板に集合したところ、被災者の姿がなく行方不明となった。その後、沖にて身元不明の遺体が発見され、DNA鑑定の結果、当該遺	70201	18	1～9

			体は被災者であると断定された。			
2020	3	10 ～ 12	漁中の漁船から海に投げ入れた網を引き揚げるため、被災者は漁船のボールローラー（2個の楕円形ゴムボール（直径20～30cm）で網を挟んで巻き上げる揚網機）を一人で操作していたところ、網を揚げ過ぎたため戻す操作をしているときにボールローラーに右手から頭部を巻き込まれたもの。（船は総トン数5トン未満（4.9tである）につき船員法適用外）	70201	7	1～9
2020	3	10 ～ 12	被災者はスプレーヤーと呼ばれる除草剤散布車を運転してコース内のグリーンの除草剤散布作業を単独で行っていたところ、コースの周囲に張り巡らされた害獣除けのフェンスを突き破ってスプレーヤーごと崖を約20m転落（逸走）し、スプレーヤーの後方で仰向けで倒れているところ発見されたもの。	140301	1	10～ 29
2020	4	8 ～ 10	生物調査のため、被災者は取水堰の中央部に位置する堰に手漕ぎボートで向かっていたところ、ボートが堰の吐水箇所転覆した。川に落ちた被災者は流れに逆らいながら堰柱に向かっていたところ、吐水箇所留まっていたボートが被災者に向かって流れ、被災者に激突した。被災者は下流に向かって流され、同じく調査をしていた労働者により救助された。救急搬送後、病院で死亡が確認された。	120109	18	1～9
2020	4	2 ～ 4	漁船に乗り、船長他2名で定置網の引き上げ作業を行っていたところ、海中に転落し水死したもの。	70201	10	1～9
2020	6	8 ～ 10	平台船（60m×20m×3m）を岸壁に接岸させようと押し船2隻で平台船を押していたところ、ずれが生じて台船が前後に傾き、平台船の単管手すりに掛けていた係留ロープに張力がかかろうとしたため、被災者がロープを外しに行ったところ、手すりが破損し、ロープもろとも約2.6m下の海面へ墜落した。墜落後、着用していたライフジャケットにより浮いて泳いでいたが、急に意識がなくなり、救出されるも死亡した。	40102	1	30～ 49

2020	8	20 ～ 22	漁師補助として被災者が乗船した船（1トン、全長6.2m、幅1.9m、高さ0.72m）が東進する中、同船の右舷後部に北進してきた別の船（4.2トン）の船首が激突した。被災者の乗船位置に別の船の船首が激突したために、被災者が同船の船首に激突され、頭部・胸部等を損傷、外傷性ショックにて死亡した。被災者は、1週間後に約300m沖で発見され、死亡確認された。	70201	18	1～9
2020	9	6 ～ 8	漁船に労働者4人が乗船し、漁港を出港して定置網を回収する操業海域に向かう途中、労働者1人が海に落ちて行方不明となり、2日後に心肺停止の状態で見つされた。	70201	10	10～ 29
2020	12	10 ～ 12	被災者は、沖合での漁のため底建網の網入作業中、ロープと網揚げ装置に体が巻き込まれた。	70201	7	1～9
2020	12	12 ～ 14	被災者を含む数名（被災者は荷台に乗車）が圧雪車により、一般開放されていないコースの整備に向かっていたところ、被災者が荷台から車両後方に転落し、車両後方に取り付けられていたスノーミルに左足を巻き込まれ、出血性ショックのため死亡したものの。	40101	1	10～ 29
2019	2	4 ～ 6	漁船A（8.46トン）のほか漁船5隻で四艘張漁（共同漁業）を行うにあたり、漁船Aに乗船していた被災者が船首付近で網の投入作業を行っていたところ、網とともに海へ転落し行方不明となったものの。	70201	10	1～9
2019	3	8 ～ 10	パッカー車を運転中、交差点にて横転。電柱、信号、ガードレールに衝突しながら壁に激突した。	150103	17	1～9
2019	4	14 ～ 16	解体工事現場で発生した廃材を産業処理施設へ運搬した後、解体工事現場へ戻る際、高速道路を走行中に、被災者が運転するダンプカーが貨物自動車に追突したものの。	30309	17	10～ 29
		6	シラス漁の準備のため、網を交換しようとして船首から船尾に網を運んでいた被災者が漁船から海に転落し溺水により死亡した災害。網交換を被災者と共に担当する同僚が網を取りに行った被災者が船上からいな			

2019	5	～	8	<p>くなっていることに気が付き、船長が後方を運航していた船団の他の船に搜索を指示したところ10分足らずで海面に浮く被災者が発見され救助されたが、搬送された病院で死亡が確認された。被災者は救命胴衣を着用していなかった。</p>	70201	10	1～9
2019	10	～	12	<p>被災者は、他の3隻と引き網漁を行っていたところ、自ら操舵していた船が方向転換する際にバランスを崩して転覆し、溺死したもの。また、同船していた同僚1名が低体温症となった。</p>	70201	10	10～ 29
2019	10	～	10	<p>沖において船上で定置網の錨（約500キログラム）を右舷と左舷で2つ同時に作成し投下する作業を行っていたところ、作成した錨を2つ同時に投下する工程で右舷の錨が海に落ちなかったため、船のバランスが崩れ転覆し、被災者は海に投げ出された。その後すぐに救助されたが、心肺停止状態であり、搬送された病院で死亡が確認された。</p>	70201	18	1～9
2019	12	～	16	<p>河口の台風で崩れた人工リーフを撤去する工事において、当日の作業が完了。作業船（クレーン台船）に曳航されていた、被災者の操船する船舶は、港に戻る途中転覆。被災者はダイバーによって船室から救助され、病院に搬送されたが、同日に死亡。</p>	30107	18	10～ 29
2018	2	～	9	<p>事業主がハーベスタの運転中に、小段に乗り上げ、ハーベスタが転倒し、周囲で作業を行っていた被災者が下敷きになり、死亡したものの。当災害によるその他の負傷者は発生していない。</p>	60101	2	1～9
2018	4	～	9	<p>わかさぎ釣りをを行うための「ドーム船」と呼ばれる船舶を、2艘のエンジン付きボートで牽引作業中、被災者が何等かの原因により、ボートから落水したもの。ドーム船を牽引するため、ドーム船とボートを固定していた繊維ロープは切断されていたが、落水した状況を目撃した者がいないため、詳細は不明である。</p>	40102	10	1～9
2018	8	～	11	<p>県境で開通予定の登山道視察のため、計9名がヘリコプターに搭乗して飛行中、何らかの原因で山中に墜落したもの。</p>	40103	18	1～9

2018	8	10 ～ 11	県境で開通予定の登山道視察のため、計9名がヘリコプターに搭乗して飛行中、何らかの原因で山中に墜落したもの。	40103	18	1～9
2018	11	10 ～ 11	索道上の支柱に設置された滑車の点検業務に従事していた被災者が、点検作業用搬機上部の足場に搭乗していたところ、何らかの理由で高さ約12メートル下の地上に墜落し、死亡したもの。点検作業用搬機には一部しか手すり等が設置されておらず、安全帯（U字つり）を着用していたが、災害発生時は使用していなかった。	40101	1	30～ 49
2018	11	16 ～ 17	河川内において、動力の無い浮きクレーン台船により袋詰め玉石を川底に敷設する作業中、予定の敷設を終えて次の敷設箇所に移動させるため、水中に沈めていた係留用コンクリートアンカーを引き上げようと小型船外機船（総トン数0.4t）に搭乗した労働者2名が当該アンカーのロープを手繰っていた際、当該船外機船が転覆し、搭乗していた2名が水中に転落した。その後、1名は救出されたものの、もう1名が溺水により死亡した。	30199	10	30～ 49
2017	1	4 ～ 5	被災者は、港に舢舨を入港させる時、曳航ロープを短くする準備作業のため、舢舨のデッキ上を移動中、海に転落した。	50201	10	30～ 49
2017	1	0 ～ 1	港沖約1.5キロメートルの海上で3隻の漁船で定置網漁をしていたが、天候が悪化したため、漁を中止し後片付け作業に入った。被災者はうち1隻（総トン数14.92トン）の船上で、片付け作業に入り、運転室の右舷でカゴを整理していたが、午前1時30分頃、強い横波を受け左舷が持ち上がり、その衝撃で海中に転落し、その後救助され、病院へ搬送されたが死亡した。	70201	10	30～ 49
2017	1	8 ～ 9	沖合約2.5kmの海上を航行中の漁船Aが、無人で海上を旋回している漁船（総トン数：6.60t）を発見したため、乗組員を捜索したところ、うつぶせに浮かんでいる被災者を見つけたが、既に心肺停止の状態であった。	70201	10	1～9

2017	1	6 ~ 7	大型貨物船（2万2千t）の接岸に伴う係留作業において、綱取り作業船（13t）に2名（船長、機関士）が乗り込み、大型貨物船から降ろされた係船ロープを受け取り作業船に取り付け、岸壁の係留設備まで運ぼうとしていたところ、たるんで海中に沈んだ係船ロープが大型貨物船のスクリューに巻き込まれたため、作業船が海中に引き込まれ転覆・沈没し、投げ出された機関士は救助されたが、船長は沈没船の操舵室で発見された。	170209	10	30~ 49
2017	1	8 ~ 9	被災者は、港の沖合に係留している台船を補修するため、同港の岸壁を小型船舶で出港した。その後、同港内で、エンジンがかかったまま無人で漂流している小型船舶が発見された後、海面にうつ伏せの状態で見つかる被災者が発見された。	10901	10	10~ 29
2017	3	16 ~ 17	作業用筏を曳航中、強風のため臨時に筏を止める場所を頼み、係留させる作業員をボートで迎えに行く途中、海に転落した。	70209	10	1~9
2017	6	14 ~ 15	被災者は、小型飛行機（機体は当該事業場が所有）に、教官（アドバイザー）兼コパイロットとして搭乗していた。同飛行機には、被災者、操縦者（非労働者）、ほか2名（非労働者）の計4名が乗っていた。災害発生日、同飛行機がA空港からB空港まで飛行した後、B空港を離陸してA空港まで戻る際に、山中に墜落した。翌日、4名の死亡が確認された。	40103	18	1~9
2017	8	10 ~ 11	観光船の最前部で立って船頭をしていた被災者が、橋桁底部のH鋼と、観光船の屋根との間に頭部をはさまれた。	40102	7	10~ 29
2017	8	14 ~ 15	被災者2名にてジェットコースターの走路に入り、走路の点検を行っていたところ、試運転で走行してきたコースターに激突され、1名は死亡、1名は重傷を負った。	11001	6	50~ 99
		0	18時30分頃、停泊中のミキサー船内の食堂で、被災者ほか2名の労働者が食事を取り、19時頃各自の部屋に戻った後、翌日、被災者			10~

2017	8	～ 1	が姿を見せないので捜索したところ、同日18時頃、船尾の海底（水深10m）で発見された。	10901	10	29
2017	9	4 ～ 5	被災者は、沖において、かご上げ作業を終え、片付け作業中、被災者らの乗船していたタコかご漁船が、サンマ棒受け漁船に衝突され転覆し、労働者2名が海に投げ出され被災者が行方不明となり、もう1名の労働者は、軽傷を負った。	70201	18	1～9
2017	10	8 ～ 9	カキ筏の運搬作業を終えて、漁船で戻る際、被災者が海に転落した。	80209	7	1～9
2017	11	14 ～ 15	ヘリコプターによる建設資機材の運搬業務を終え、同機で移動する途中、何らかの原因で橋上に墜落し、機体が大破、炎上して死亡した。 なお、当該被災者のほか搭乗していた操縦士1名、整備士2名も死亡した。	40103	18	10～ 29
2017	11	14 ～ 15	ヘリコプターによる建設資機材の運搬業務を終え、同機で移動する途中、何らかの原因で橋上に墜落し、機体が大破、炎上して死亡した。 なお、当該被災者のほか搭乗していた操縦士1名、整備士2名も死亡した。	40103	18	50～ 99
2017	11	14 ～ 15	ヘリコプターによる建設資機材の運搬業務を終え、同機で移動する途中、何らかの原因で橋上に墜落し、機体が大破、炎上して死亡した。 なお、当該被災者のほか搭乗していた操縦士1名、整備士2名も死亡した。	40103	18	50～ 99
2017	11	14 ～ 15	ヘリコプターによる建設資機材の運搬業務を終え、同機で移動する途中、何らかの原因で橋上に墜落し、機体が大破、炎上して死亡した。 なお、当該被災者のほか搭乗していた操縦士1名、整備士2名も死亡した。	40103	18	50～ 99
2017	11	6 ～	ホタテの養殖のため、早朝、漁船（7.9トン）に代表者ら3人が乗り込み、漁港を出港し、約1.5km沖の養殖場所に到達したとき、	70209	10	1～9

		7	被災者がいないことに気づいた。後日、同漁港の近くで遺体で発見された。			
2017	12	8 ～ 9	被災者はウニ漁に従事中、漁船の機関が故障し潮流に流され座礁したため、被災者の指示により海面に浮上した潜水士を漁船の左舷側の甲板上において、他の労働者とともに救助作業を行っていた。波の影響で漁船が動揺したことにより海に落水し流され、近くの島の岸に流れ着いたが再び流され、僚船に救助されたものの低体温症により死亡した。なお、潜水士も救助され、漁船に引き上げられたが死亡した。	70201	18	1～9
2017	12	12 ～ 13	航空機の尾翼等整備のため、格納庫奥に保管されていた機体をトローリングトラクターで牽引する際、一旦格納庫外へ前進移動させた後、後退させ格納庫内の作業位置へ移動させる作業を行っていたところ、突然左翼下にある車輪が格納され、機体が傾き、左翼が地面に接触した。その際、左翼の真下にいた被災者が下敷きになり被災した。	40103	6	300 ～ 499
2016	1	12 ～ 13	被災者は同僚と2名でスキー場の一次閉鎖に伴う整備作業に従事し、作業終了後、同僚が運転する雪上車に乗って下山した。被災者は麓の駐車場付近で雪上車から降りた後、被災者がけがで使用していた松葉杖を同僚が運転席から手渡そうとして手を伸ばした時、誤って、同僚の腕が運転席のアームレスト先端に取付けてある走行操作レバーに触れてしまい、雪上車が前進し、履帯の前にいた被災者は胸部及び下半身を履帯にひかれた。	140309	7	10～ 29
2016	4	11 ～ 12	棧橋に台船、取引先船舶の順に係留されていた。被災者は、ロープで取引先船舶に係留しようと棧橋の支柱を伝い降り台船に乗ろうと台船に足を掛けたところ、強風と波により台船が棧橋から離れたため、足を踏み外し台船外側に取付された緩衝材の上に落ちた。この時、強風と波により台船が棧橋の支柱方向に戻って来て被災者は棧橋の支柱と台船の間に挟まれた。	11501	7	10～ 29
			被災者は、事業場が所有する旋回起重機船を補修するため、造船会社まで曳航する作業を行っていた。被災者は、旋回起重機船の船尾に固			

2016	4	6 ～ 7	定した揚錨船の様子を見に行くと同僚に伝え、一人で船尾側へ向かった。その後、様子を見に行った同僚は揚錨船が転覆しているのを見、被災者は行方不明となった。そして、被災者は沖合で遺体で見えられた。	30111	10	50～ 99
2016	5	10 ～ 11	被災労働者が運転する6 tトラックが走行中に緩やかな左カーブを曲がる際にセンターラインを越え、対向車（6 t）のウイングボディと運転席部分が衝突し死亡した。	40301	17	10～ 29
2016	5	6 ～ 7	漁港を出港し、僚船2隻と船引き網でシラス漁をしていたところ、僚船に乗っていた被災者が海へ転落し溺死した。	70201	10	1～9
2016	6	13 ～ 14	本件事業場は被災者を漁師として雇用し、巻網漁で水産物採取を行うもの。被災者は災害発生日、漁船3隻で船団を組み、巻網漁を行っていた。13時40分頃、5 km沖合の海上で操業中、被災者は巻網内の漁獲物を回収する為、乗船していた網曳船から僚船（漁獲物運搬船）に移ろうとして海面に転落し、乗船のスクリューに巻き込まれて脳挫傷により死亡した。	70201	7	1～9
2016	8	6 ～ 7	漁船（総トン数4.8 t）に船長と被災者の2名が乗船し、沖合でのシラス漁の操業中、漁船が高波を受けて転覆した。船長が海中に転落した被災者を救出したが、救急隊の到着時には既に心肺停止の状態であり、搬送先の病院で死亡が確認された。	70201	18	1～9
2016	8	7 ～ 8	被災者らが甲板上で定置網に取り付けられたロープを結んでいたところ、船が後進した。その際、被災者がロープによって甲板上を引きずられ、ロープと船上の柱（たち）に挟まれて死亡した。	70201	7	10～ 29
2016	12	17 ～ 18	被災者はロープウェイの山麓駅の上部にある走行レール付近に上がり、曳索用の滑車の軸からはみ出したグリースの除去作業を行っていたところ、営業運転中のゴンドラが進入して来て、ゴンドラの懸垂元の走行車輪フレームと緩衝器との間に腰から大腿部をはさまれ、死亡	40101	7	100 ～ 299

			した。			
2015	1	8 ～ 9	リフトの点検及び始動をするため、スノーモービルにより初心者コースを移動中、ゲレンデを横断して脇道に入ろうと、斜面下方方向23度から38度、進入方向斜度18度の斜面を駆け上がろうとしたため、38度付近に差し掛かった際に安定度を失い、下方方向へ横転する形で約10.4m転落した。その後、スノーモービルの下敷きになった状態で発見されたものの、窒息状態により死亡した。	40101	1	300 ～ 499
2015	3	8 ～ 9	信号のない交差点内で、東方向に走行していたダンプカーが南方向に走行していた被災者2人が乗ったバキュームカーの側方部に衝突した。衝撃でバキュームカーは2、3回転した。助手席に乗っていた労働者は車外に投げ出され、頭等を強く打ち、翌日搬送先の病院で死亡した。運転席に乗っていた労働者は腰の骨を骨折した。	150109	17	10～ 29
2015	8	15 ～ 16	岬の約3.7km沖合で、底引き網漁中の漁船(13.47t)と貨物船が衝突した。漁船は転覆し乗っていた2人のうち船長は救助されたが、乗組員が行方不明となっている。(平成27年8月30日に発見され、死亡が確認された。)	70201	18	1～9
2015	10	10 ～ 11	取水口工事の二重鋼矢板内(5m×24.8m)の水面上で、ブラケットを溶接するためにいかだ(1.8m×4m、丸太(径約25cm×7本))に乗って3名で移動していたところ、いかだが転覆し、おぼれ、1名が意識不明の重体となり、65時間後に死亡したもの。	30199	10	30～ 49
2015	3	0 ～ 1	港湾事務所が所有する船舶に乗り、発注者の検査補助業務を行い、業務終了後、船から岸壁に上陸しようとして3～4m下の海面に転落した。被災者の頭部が船舶のフェンダー(防舷材)と岸壁に挟まれ、被災者は船に引き上げられたが、頭部の損傷が激しく、脳からも出血し、翌日死亡した。	170209	1	30～ 49
2015	3	10 ～ 11	ヘリコプターを使用し資材の運搬を行い、当該資材の荷下ろし完了後、燃料補給のため場外離着陸場に移動を開始したところ、送電線に接触し墜落炎上した。	40103	18	30～ 49

2015	3	10 ～ 11	発電所の配電撤去工事において、ヘリコプターにて撤去資材を運送する業務を行っていたところ、作業開始から発電所と荷卸し場を3往復した後、給油のためにヘリポートに向かう途中、高さ約300メートルの位置にあった送電線に接触して墜落、乗員2名が死亡したもの。	40103	18	30～ 49
2015	7	17 ～ 18	被災者は曳航船に曳航されたはしけに1人で乗船し、平成27年7月22日午後4時頃に港の埠頭を出港、同日午後5時30分頃に到着地の港内港船だまりに到着したが、到着時に被災者がはしけに乗船しておらず行方が分からなくなっており、同年7月26日に川の河口付近に浮かんでいるのが発見されたもの。	50209	10	10～ 29
2015	11	16 ～ 17	歯科医院に勤務する被災者がごみ出しのために歯科医院の駐車場から歩道に出ようとしたところ、走行してきた自転車に駐車場で衝突され、頭部ほかを強打し、搬送先の病院で翌日死亡した。	130109	6	1～9
2015	8	19 ～ 20	浚渫工事の運搬船航路にある流木を取り除くため、流木を交通船で沖へ曳航し、曳航していたロープを外す作業中に、被災者は船から海上へ転落したもの。船には船長と被災者2名で乗船。船長は転落した瞬間は目撃していない。転落後、被災者は救命胴衣で浮いており、意識はあり会話できる状態であったが、その後、意識を失ったもの。後に引き揚げられたが、死亡したもの。死因は拡張性心筋症による急性循環不全。	30111	1	1～9
2015	8	13 ～ 14	観光目的の川下りの船頭をしていた被災者が、船尾から船首に移動するため船の左舷を移動していたところ川に転落した。被災者はしばらくの間泳いで船を追っていたが、途中で心筋梗塞を発症し、沈んだ。同僚が川に入って被災者を川から出し、心肺蘇生を試みたが、被災者は死亡した。	40102	10	100 ～ 299
2014	1	1 ～	被災者は、1人でスノーマシン（人工降雪機）の稼働状況を確認するため、スノーモービルに乗って詰所を出発した。被災者が詰所に戻って来なかったため、班長が1人で被災者を探しに行ったところ、ゲレンデのリフト山頂付近に固定設置してあるスノーマシンの近くでス	40101	2	30～ 49

		2	ノーモービルの下敷きになり、頭を麓に向け、あおむけに倒れている被災者を発見した。			
2014	1	8 ～ 9	沖合で、2隻1組でシラス漁をしていた漁船（9.86t）の漁網を貨物船のスクリューが巻き込み漁船が転覆。乗組員1名が死亡した。	70201	18	1～9
2014	2	15 ～ 16	被災者は、カキ筏監視船に乗船。当日はカキ筏の標識灯の電池交換作業が予定されていた。夕方、被災者が乗船していた船のみが発見されたため、海上保安部に救難要請。溺死している被災者が発見された。尚、発見時被災者はライフジャケットを着装していた。	70209	10	1～9
2014	4	13 ～ 14	造船所内に船舶を停留させ、点検及び定期検査中、船舶内に設置されたクラムシェル上にて、被災者等がクラムシェルのブームに取り付けられていたフートピンを取り外し、フートピンを再度取り付けていた際、被災者はバランスを崩し、作業床の端から約8.5m下の船倉の底に墜落し、死亡した。	11501	1	1～9
2014	4	14 ～ 15	原糖運搬船の清掃作業中、ハッチコーミングに掛けられていたブルーシートを取り外すため、コーミングトップレールに上ったところ、11.5m下の船倉底部に墜落した。	50202	1	10～ 29
2014	5	4 ～ 5	小型定置網漁船で定置網漁の作業中、巻上げ装置で漁網を巻き上げていたところ、巻上げ装置に巻き込まれた。	70201	7	1～9
2014	5	9 ～ 10	ディサービスの利用者を軽自動車を迎えに行く途中、国道の交差点にて、トラックと衝突した。	130201	17	10～ 29
2014	5	8 ～ 9	沖合バースへ作業員を運ぶ船舶にて、被災者の姿が見当たらなくなったため捜したところ、岸壁に停泊中の船舶と岸壁との間の海面に、うつ伏せの状態で見つかるのが発見された。	40102	10	1～9
		5	八尺と呼ばれる鉄製の網を海底に沈める準備を甲板で行っていたとこ			

2014	8	6	ろ、バランスを崩し、八尺とともに海中に転落した。尚、被災者は救命胴衣を着用していた。	70201	10	50～ 99
2014	9	10	海上でホタテ移植作業中、採捕場所に向かって航行している船の側面で待機していたところ、波を受け、大きく船体が動揺し、海中に転落した。	70209	10	50～ 99
2014	11	9	ヘルメット潜水によるウニ漁にて、海底の潜水士の動きに合わせ、船を微速で移動させていた際、操船していた船長の意識が一時的に消失し、船が急加速し、送気管が引きちぎられ、潜水士が溺死した。	70201	10	10～ 29
2014	12	7	漁港を出港した際、南下してきた砂利運搬船と衝突し、転覆。被災者ら2名が死亡した。	70209	18	1～9
2013	3	6	新聞配達のため、片側1車線の直線の左端を自転車で走行中、後方から走行して来た軽乗用車に追突された。	80205	17	10～ 29
2013	9	12	船長他2名で漁を終え帰港途中、船体（4.9トン）の清掃作業を行っていた被災者が海に転落し、溺死した。また、被災者を助けようと船長が海に飛び込んだが溺れ、病院に搬送したものの死亡した。	70201	10	1～9
2013	4	15 ～ 16	接岸しているコンテナ船を離岸させるため、被災者他1名が乗り込んでいた作業船は、コンテナ船の船首に緊結されたロープを船尾のフックに緊結し、曳航。コンテナ船の船首の向きを変えた後、フックからロープを外す予定であったが、ロープが張ってしまい外せなくなりそのままコンテナ船に引っ張られ転覆。操舵していた労働者は、海中で発見されたが死亡していた。	50202	18	30～ 49
2013	12	10 ～ 11	スキー場バリエーションコースの斜度8度（不確定）の位置に、スノーモービルを斜面に対し横向きに動力を切り停止させていたところ、当該スノーモービルが転倒し、被災者が下敷きとなった。スノーモービルは1回転半し停止し、下敷きとなった被災者は死亡した。	40101	2	10～ 29

2013	9	10 ～ 11	被災者は、集品センターに入庫し廃棄物収集を開始した（当日は、40袋ほど回収する予定であった）。集品センターのパートがゴミ袋を集積所に出しに来た際、パッカー車に巻き込まれていた被災者を発見した（被災者は足だけが見える状況であった）。	150102	7	30～ 49
2013	10	8 ～ 9	ダム湖を遊覧する水陸両用車の乗入れ場所であるスロープ付近に溜まった流木等を除去するため、被災者は一人で小型モーターボートに乗り、周囲を巡回させながら流木等を岸部に寄せる作業を行っていたところ、湖に転落した。尚、救命胴衣は着用されていなかった。	170209	10	10～ 29
2013	12	17 ～ 18	道路建設工事において、警備員2名で交通整理を行った後、被災者は駐車していた車（自家用車）に戻り、ヘルメット、反射チョッキなどを脱ぎ、現場付近の歩道に出て歩いていたところ、自転車に後方から追突され、転倒し後頭部を強打した。	170201	17	10～ 29
2013	1	9 ～ 10	船長、被災者、同僚の3名は、4.9トンの漁船で、つぶカゴ漁を行っていた。被災者が巻上機により、巻上用繊維ロープ付属のつぶカゴを引き上げた際、同ロープ先端部のアンカーに海底に投棄されていたワイヤーが引っかかった。被災者は、アンカーから投棄ワイヤーを取り外すため、巻上機から同ロープを取り外し海中に投下したところ、デッキ上にたまっていたロープが動き、それに足を取られ転落した。	70201	10	1～9
2013	1	1 ～ 2	被災者は、船長及び同僚と共に4.9トンの船舶に乗船し、スケトウダラの刺し網漁に従事中、揚網した魚が排水口に詰まっていたために、海水が甲板上に溜まり、船体が左舷に傾き転覆した。災害発生当時、天候曇り、波約1m、風約1m、海水温2.1℃であった。尚、乗組員は救命胴衣を着用していなかった。	70201	10	1～9
2013	4	1 ～ 2	強風のため遊覧船を棧橋から別の棧橋へ避難させた後、船員5人は船内で食事を取り就寝した。朝になって被災者の姿が見えないので船内及び他の遊覧船内を捜したが見つからず、警察に通報しダイバーが潜水して遊覧船周辺を捜索したところ、右舷から約5m離れた湖底にう	40102	10	10～ 29

			つ伏せて沈んでいる被災者を発見したが、既に死亡していた。			
2012	2	10 ～ 11	被災者は、自ら操縦する船でベルトコンベヤーを用いて生け簀（す）内に餌を撒く作業を行っていた。作業中に被災者が見当たらなくなつたため、僚船が海を捜索していたところ、海底で発見された。	70209	10	10～ 29
2012	1	22 ～ 23	岸壁に係留していたはしけ船のタンク（約30 t）にホースで水道水を貯水していたのを止めようと岸壁に降りかけた際、はしけ船と岸壁の間の海に墜落した。	40102	10	10～ 29
2012	6	6 ～ 7	浚渫工事のため、浮きクレーン、押船、土運船、作業船の4隻をつないだ状態で岸壁を出港した。先ず、作業船（被災者と同僚の2名が乗船）を先行して現場に行かせたところ、土運船の右舷船首に接触し、沈没した。同僚は救助されたが、被災者は海に投げ出され、行方不明となり、数日後遺体で発見された。	30111	18	30～ 49
2012	9	11 ～ 12	シラス機船船びき網（通称：バッチ網）漁で、2隻を連結した1隻側に作業員4人が集まり、既に船上に巻上げられている網の掃除のため、航行中の船尾で網の中の不要な物を船外へ振り落とす（シャクとり）作業中に、網が海面に接触し、網が流れ出したので被災者たちは退避しようとしたが、流れ出している網に体の一部が引っ掛かり、網と共に海中へ転落し溺死した。	70201	10	1～9
2012	9	11 ～ 12	シラス機船船びき網（通称：バッチ網）漁で、2隻を連結した1隻側に作業員3人が集まり、既に船上に巻上げられている網の掃除のため、航行中の船尾で網の中の不要な物を船外へ振り落とす（シャクとり）作業中に、網が海面に接触し、網が流れ出したので被災者たちは退避しようとしたが、流れ出している網に体の一部が引っ掛かり、網と共に海中へ転落し溺死した。	70201	10	1～9
2012	7	3 ～	卸売市場地上1階にある勤務先の店舗から、同市場地下1階にある鮮魚卸売商の水槽（生簀）に活魚を仕入れるため、勤務先所有の自転車に乗り、地上1階から地下1階につながるスロープ（長さ約110m、勾配約4.5度）を下っていたところ、転倒し、コンクリート通路で右側頭部か	80109	2	1～9

		4	ら後頭部にかけてを強打し、急性硬膜下血腫を発症、救急搬送先の病院で死亡した。			
2012	10	14 ～ 15	川の土砂の堆積具合を、被災者を含め3名で右岸と左岸に分かれて測量中、別の場所まで船外機付きゴムボートに乗り移動していたところ、左岸側の岸から出ていた長さ約10mほどの倒木（直径約40cm）の枝に、当該ゴムボートが当たり、その反動で被災者のみが川へ投げ出され下流へ流された。被災者は、数日後に約4Km下流で遺体で発見され、紐を引くと膨らむタイプのライフジャケットを着用していた。	170209	10	1～9
2012	10	6 ～ 7	沖合い数百mの海上においてシラス漁の操業中、被災者は船尾付近で網入れを開始したところ、網に足が引っ掛かかり海中に転落した。	70201	10	1～9
2012	4	8 ～ 9	被災者は自転車で出勤し勤務先の駐輪場を走行中、歩道の段差で前輪のバランスが崩れ、自転車とともに転倒した。	130101	2	300 ～
2012	10	2 ～ 3	被災者はたこ籠漁業操業漁船甲板員として乗船し、漁場に向け出港した。出港後、仕掛けの準備を終えた被災者は、船員室で漁場に着くまで休息をとっていたが、何かの理由で甲板に戻ったところ、海中に転落した。	70201	10	1～9
2012	9	7 ～ 8	鮭漁を行うため漁場に到着後、海中に仕掛けた底建網（そこだてあみ）を引き揚げその下に漁船を滑り込ませ、網の端部から掛かった魚を取った後、再び底建網を海中に沈めるため漁船を前進させていたところ、被災者の足元にあったロープが被災者の足に絡まり、漁船から海中に転落した。なお、被災者はライフジャケットを着用していなかった。	70201	10	1～9
2012	2	7 ～ 8	被災者はタラ刺し網漁船の乗組員。出港後しばらくして、高波にあおられた被災者は海上に転落した。気象庁のデータによると、当日の波の高さは1～2mであった。	70201	10	1～9

2012	10	9 ～ 10	被災者はホタテ漁のためホタテ漁船に乗り、「八尺」と呼ばれる爪付きのけた網を海中に投入する作業に従事していたところ、八尺のチェーンに足が引っ掛かり、八尺と共に海中に転落した。乗組員に救助され病院に搬送されたが、死亡した。	70209	10	50～ 99
2011	9	14 ～ 15	ゴルフ場内の除草作業をするため、カート用道路を2人乗りのカート（左ハンドル）で移動中、下り坂の左カーブで右側の助手席に乗っていた被災者が投げ出され転落したもの。	140301	1	100 ～ 299
2011	11	9 ～ 10	傭船した船舶（曳船：19トン）に航路案内のため同乗していたところ、大波を受け転覆・沈没し、船長他1名の船員とともに海上に投げ出された。救助されたが収容先の病院で死亡が確認された。同人に対する船員法の適用について、事務所宛照会中のところ、船員法の適用無し旨連絡があった。なお、船員1名についても死亡が確認された。	30111	18	10～ 29
2011	5	14 ～ 15	外国船籍のバラ積み貨物船の2番ハッチ（船倉内）にスラグを積み込む作業中、同ハッチの船首側に積み重ねていたポンツーン（中甲板）5枚（20t/枚）が滑って動き、船倉の壁と同ポンツーンの間（約1メートル）を歩いていた被災者が挟まれ死亡した。	50202	7	30～ 49
2011	5	8 ～ 9	トラックの横乗り業務のために交差点から約10mのところではトラックの到着を待っていたところ、国道を自転車が横切り、これを避けようとした乗用車がタンクローリーの進路を塞いだため、乗用車を避けようとしたタンクローリーが歩道に乗り上げ、タンクローリーの車体と民家の間に挟まれたもの。	40301	17	300 ～
2011	3	8 ～ 7	シラス漁の解禁日であったことから、A丸およびB丸はそれぞれ僚船とともに午前6時頃よりシラス漁の漁場に向かった。午前7時15分C市D海岸の南沖合約2キロメートル地点で、網を広げるために左方向へUターンするように進路を変えたA丸と後方から航行してきたB丸が衝突した。B丸の乗組員2名が受傷、A丸は転覆し6名が海に投げ出された。	70201	18	1～9
			シラス漁の解禁日であったことから、A丸およびB丸はそれぞれ僚船と			

2011	3	8 ～ 7	ともに午前6時頃よりシラス漁の漁場に向かった。午前7時15分C市D海岸の南沖合約2キロメートル地点で、網を広げるために左方向へUターンするように進路を変えたA丸と後方から航行してきたB丸が衝突した。B丸の乗組員2名が受傷、A丸は転覆し6名が海に投げ出された。	70201	18	1～9
2011	4	12 ～ 13	092 労働者5名で市内のボートヤードにおいて、架台上の屋形船の修理を行っていたところ、被災者が地面で倒れているところを発見されたもの。死因は外傷性クモ膜下出血。	11501	1	10～ 29
2011	3	13 ～ 14	被災者を含め作業員6名にて、本船からコンテナを下ろす作業を行っていたところ、本船後方の海面に被災者のヘルメットが浮遊しているのを他の作業員が発見し、捜索したが行方不明となった。その後、警察署が捜索を続けていたところ、平成23年3月24日9時10分ごろに3バース付近にて、浮遊しているのが発見され、被災者と確認された。	50202	1	100 ～ 299
2011	4	10 ～ 11	被災者は、港から約10分の沖合において、スクーバ式潜水により採藻業を行っていた。作業に当たっては、潜水士4名（被災者含む）と船頭1名で作業を行っていた。潜水士2名は作業を終了したのち船上で待機し、3人目が海面に浮上したので、浮上者を迎えに行くため、船頭が船のエンジンを始動したところ、被災者が船のスクリュウ箇所	70201	7	1～9
2011	10	12 ～ 13	災害発生当日被災者2名が乗ったヘリコプターは、山中の登山道整備工事で使用する資材輸送のため、飛行場を離陸し、山中に設けられた作業用ヘリポートに向かった。当日は、13個の資材を輸送する予定であり、10個目の資材の輸送を終え、作業用ヘリポートに帰投途中、機体後部に異変が生じ、機体のバランスが崩れまもなく墜落した	40103	18	50～ 99
2011	9	17 ～	港の埠頭に係留中のバックハウ台船内の職員食堂にて夕食を済ませ、就寝場所である曳船に戻る際、何らかの状況により渡りそこね、海中	30111	10	30～

		18	に転落、溺死した。			49
2011	3	4 ～ 5	事業主及び被災者2名は、共に海老籠を仕掛けるため漁船（4.9トン）に乗船し漁港を出港した後、沖合の漁場へと航行させていたところ、漁船が転覆し行方不明となったもの。午前4時50分頃に、携帯電話により救助要請の連絡が入り、捜索が行われたものの、船体も含め発見には至らなかったもの。平成23年12月15日海上保安庁から死亡報告書の交付があったもの。	70201	18	
2011	3	4 ～ 5	事業主及び被災者2名は、共に海老籠を仕掛けるため漁船（4.9トン）に乗船し漁港を出港した後、沖合の漁場へと航行させていたところ、漁船が転覆し行方不明となったもの。午前4時50分頃に、携帯電話により救助要請の連絡が入り、捜索が行われたものの、船体も含め発見には至らなかったもの。平成23年12月15日海上保安庁から死亡報告書の交付があったもの。	70201	18	1～9
2011	5	17 ～ 18	カニ刺し網漁業の操業を終えて帰港中、被災者は船員室で食事を済ませ、船員室を出た後行方不明となったもの。（平成23年12月2日支給決定）	70201	10	1～9
2011	7	9 ～ 10	被災者2名は学生2名と共に7月28日午前、訓練飛行のため、小型プロペラ機で空港を離陸したが同日午後1時55分ごろ、斜面に墜落しているのが発見されたもの。機内などから3名（被災者2名、学生1名）を収容したが、間もなく死亡が確認された。なお、もう1名の学生は同町内の林道で負傷した状態で保護されたもの。	120109	18	10～ 29
2011	7	9 ～ 10	被災者2名は学生2名と共に7月28日午前、訓練飛行のため、小型プロペラ機で空港を離陸したが同日午後1時55分ごろ、斜面に墜落しているのが発見されたもの。機内などから3名（被災者2名、学生1名）を収容したが、間もなく死亡が確認された。なお、もう1名の学生は同町内の林道で負傷した状態で保護されたもの。	120109	18	10～ 29
			9.7tのホタテ漁船が転覆し、乗っていた2名のうち1名が死亡、			

2010	12	11 ～ 12	1名が行方不明となった。出漁してから約2時間後、「ホタテかごをスクリューに巻き込ませてしまった」と僚船に無線連絡があった。スクリューの回転力は強く、かごの網が絡まった程度であれば航行可能なものであるが、同船が帰港しないため僚船が様子を見に行ったところ、転覆している同船を発見したものである。災害発生当時、転覆の原因となるような風浪はなかったため、かごを巻き込んだ後に何らかの原因で船体のバランスを崩したと考えられる。	70201	18	1～9
2010	12	11 ～ 12	9.7tのホタテ漁船が転覆し、乗っていた2名のうち1名が死亡、1名が行方不明となった。出漁してから約2時間後、「ホタテかごをスクリューに巻き込ませてしまった」と僚船に無線連絡があった。スクリューの回転力は強く、かごの網が絡まった程度であれば航行可能なものであるが、同船が帰港しないため僚船が様子を見に行ったところ、転覆している同船を発見したものである。災害発生当時、転覆の原因となるような風浪はなかったため、かごを巻き込んだ後に何らかの原因で船体のバランスを崩したと考えられる。	70201	18	1～9
2010	11	14 ～ 15	沖合約50～100mの海上において、被災者と船長の2名は漁船(2t)に乗船しハタハタ漁に従事中、船体に波を受けて船首が持ち上げられた状態となったため、船首付近で網を投下中の被災者が姿勢を崩して海中に転落した。被災者は救命胴衣を着用していたものの船体が被災者の頭部に激突したことにより溺死した。	70201	10	1～9
2010	9	7 ～ 8	被災者はヘリコプターで山中の橋の基礎部の補強工事に使う資材や機材の運搬の為、資材置き場と現場を往復していたが、現場に霧がかかっていたために資材を降ろさず、資材置き場に戻る途中に墜落したもの。災害発生時、資材(自然石、2.4t)はワイヤーロープを用いてヘリコプターから吊り下げられていた。	40103	18	50～ 99
2010	9	7 ～ 8	登山道の歩道橋の橋脚補強工事で使用するための麻袋に入れた砕石材約2.4tをワイヤーで吊し、ヘリコプターで輸送中、山林に墜落した。	40103	18	100 ～ 299

2010	8	7 8	被災者は、河口の沖約3 km付近で、サケ定置網漁船（19 t）の船上から、鮭の捕獲用定置網の投入作業中、いかりに繋がったロープが足にからみ海中に転落した。同船の作業員で船上に引き上げ港に戻り、救急車で病院へ搬送したものの、溺死と確認されたもの。救命胴衣を着用していなかった。	70201	10	30～ 49
2010	7	10 11	パイロット及びカメラマンの被災者2名は、航空写真撮影のため小型飛行機に乗り、目的地に向けて飛行中、レーダーから機影が消えて行方不明となった。2日後に山中に墜落しているのを発見され、2名は収容されたが病院で死亡が確認された。事故当時は濃霧注意報が発令されており、視界不良が一因である。	120109	18	100 ～ 299
2010	7	10 11	パイロット及びカメラマンの被災者2名は、航空写真撮影のため小型飛行機に乗り、目的地に向けて飛行中、レーダーから機影が消えて行方不明となった。2日後に山中に墜落しているのを発見され、2名は収容されたが病院で死亡が確認された。事故当時は濃霧注意報が発令されており、視界不良が一因である。	40103	18	300 ～ 499
2010	7	11 ～ 12	山中にて山岳遭難救助中、何らかの理由によりヘリコプターが墜落し、搭乗者2名が死亡したもの。なお、本件における死亡者は5名であり、うち3名は消防署隊員であったもの。運輸安全委員会にて調査中。	40103	18	50～ 99
2010	7	11 ～ 12	山中にて山岳遭難救助中、何らかの理由によりヘリコプターが墜落し、搭乗者2名が死亡したもの。なお、本件における死亡者は5名であり、うち3名は消防署隊員であったもの。運輸安全委員会にて調査中。	40103	18	50～ 99
2010	7	6 7	総t数2.4 tの船上で養殖ホヤの水揚作業を行い作業の終了後、帰港したところ、被災者の姿が見えなくなっていた。搜索の結果、作業場所付近の海底で遺体で発見された。作業を終え、帰港の際、乗組員4名は、それぞれが通常着座する位置に移動し、被災者も着座位置である後方左隅への移動を目撃されたのが最後で、途中で落船したとみ	10102	10	1～9

			られるが、当時の状況は目撃されていない。船に救命胴衣を備えていたものの着用していなかった。			
2010	6	7 8	被災者ほか労働者3名により、沖合で魚を入れる網を養殖筏内に設置作業中、養殖筏と船舶を係留していたロープが切断し、被災者が落水した。この際、養殖筏につかまっていた被災者が、波で揺り戻された船舶の側面にあるタイヤ（緩衝材）と養殖筏との間にはさまれ、死亡した。	70209	7	1～9
2010	5	8 9	船外機付きの船に乗っていた労働者から、「船外機が故障し船が動かなくなった」と台船に乗っていた現場責任者に連絡があり、現場責任者は被災者に台船に繋いでいる小型船で救助に行くよう指示した。被災者は台船と小型船を繋いでいるロープを外し、小型船に乗り救助に向かう途中、繋いでいたロープの片方が湖に垂れていたため、被災者はエンジンをつけたままでロープを引き上げようとした際、バランスを崩し船から転落し溺死した。被災者は、自動膨張式の救命胴衣を着用していたが、救命胴衣に穴が開いていたためガスが抜け、救命胴衣の役目を果たさなかった。	30107	10	10～ 29
2010	5	8 9	被災者は、港の旅客船棧橋に接岸中の客船に小型ゴムボートを係留する作業を当該客船の船長と2人で行っていた。先に船長がゴムボートに繋いだロープを持って客船に移り、続いて同様にゴムボートのロープを持った被災者が客船に移ろうとしたところ、客船の屋根に前頭部（保護帽を着用せず）を打ちつけ、その弾みで後方に転倒した。被災者は仰向けのまま倒れて岸壁の床面に後頭部を強打し、搬送先の病院で死亡した。	40102	2	1～9
2010	4	8 9	コマイ定置網漁船（0.4t）に乗組員2名が乗り込み、沖合で網入れ作業中、波を受けて海中へ転落し、1名は救助されたが被災者はそのまま行方不明となったもの。救命胴衣を着用していなかった。	70201	10	1～9
		16	進水後、造船所内の岸壁に係留中の艀装中船舶において左舷ボートダビット（船橋横の救命艇ハンガー）で塗装の準備作業を行っていた労			30～

2010	2	～ 17	働者が約20m下の岸壁に墜落した後、さらに船舶と岸壁の間の水面へ転落した。	11501	1	49
2010	1	0 ～ 1	タラ刺し網漁船（9.7t）に船長（事業主）と乗組員2人が乗り込み沖合で操業中、僚船との無線交信を最後に連絡が途絶え、そのまま3名とも行方不明となったもの。その後、漁船が転覆しており、3名のうち2名が発見された。残る乗組員1名は未だ行方不明である。	70201	18	1～9
2010	1	0 ～ 1	タラ刺し網漁船（9.7t）に船長（事業主）と乗組員2人が乗り込み沖合で操業中、僚船との無線交信を最後に連絡が途絶え、そのまま3名とも行方不明となったもの。その後、漁船が転覆しており、3名のうち2名が発見された。残る乗組員1名は未だ行方不明である。	70201	18	1～9
2009	11	10 ～ 11	ダイビングの準備作業中、ダイビング船の前方のアンカーを設置した後、後方にも設置しようとしていたダイビングスタッフが後退してきたダイビング船のスクリューに巻き込まれ死亡した。ダイビング船の船長は船前方のアンカー設置後、アンカーロープを張るためにギアをバックに入れたがアンカーロープが張られた後も、ギアを切り替えなかったため被災者がいた位置までダイビング船が後退した。	140309	8	1～9
2009	9	7 ～ 8	台風の接近に備えて、沖合約2kmにある定置網（大敷網）の2段箱の引き上げ作業を行うために、作業者20人（船上に10人、海上に被災者含め10人）で作業を行っていたところ、船を固定するために船首及び船尾を定置網と結んでいたロープの船首側が切断したため、被災者は潮流に流された船と定置網のブイ（浮き）にはさまれた。	70201	7	10～ 29
2009	3	14 ～ 15	港内の海上において、着岸させた事業場所有の台船上に小型船舶（作業船）を上げ、当該船舶の船底に塗装作業を行っていた被災者が、何らかの原因で小型船舶が倒壊し下敷きとなった。	30309	5	1～9
2009	4	7 ～ 8	河川の護岸工事に関し、河川に汚濁防止フェンスを展開する作業が発生したため、自己所有の船舶を操縦して海側から河川に溯上しようとしたところ、河口から約200m沖合の海上にて船舶が転覆し死亡した。	30107	10	10～ 29

2009	8	10 ～ 11	船舶に積まれた材木の荷降ろし作業中、束ねた材木約15本のうち1本がずれており、地切り後に荷が傾き、この1本を揚貨装置を用いて引き抜いたところ、抜けた1本が玉掛け作業後に作業指揮をしていた被災者に向けて転がったため、被災者は、船舶マストにしがみつき退避しようとしたが、そのまま海へ転落、海中に沈み、死亡した。	50202	1	100 ～ 299
2009	3	7 ～ 8	コンテナ船に係留するため本船から出された係留索を岸壁のビット（係船柱）にかける作業中、1本目の係留索をビットにかけ、続いて2本目を岸壁に引き上げていたところ1本目の係留索が切断し、被災者に激突した。	170209	6	30～ 49
2009	3	7 ～ 8	コンテナ船に係留するため本船から出された係留索を岸壁のビット（係船柱）にかける作業中、1本目の係留索をビットにかけ、続いて2本目を岸壁に引き上げていたところ1本目の係留索が切断し、被災者に激突した。	170209	6	30～ 49
2009	2	14 ～ 15	被災者は、川左岸の釣り場で同僚と二人で川面の清掃作業に従事していた。清掃作業は小船に乗り、たも網でゴミを小船に乗せ、陸上にてゴミを分別するものであった。被災者らは30分程で清掃作業を終了し、ゴミの分別作業のため岸へ戻っている途中、同船がバランスを崩し転覆した。被災者はおぼれ、同僚は近くの栈橋に泳ぎ着いた。	140309	10	1～9
2009	7	10 ～ 11	沖合約1kmでシラス漁をしていた漁協所属の漁船（8.5t）が僚船と衝突した。本船に乗っていた被災者は僚船の舳先と本船のネットローラーとの間にはさまれた。	70201	18	1～9
2009	12	7 ～ 8	建設現場内において、建設重機の給油を依頼され、現場内に入場してきた被災者運転のタンクローリー車（タンク最大積載量3400kg）が仮設道路を走行し、方向転換場所の少し上方坂道でUターンしようとして後進した際に土砂が盛り上がった道路端部に後輪を乗り上げたので、状態確認のため、降車した時にタンクローリー車が横転し、被災者が下敷きになった。	80204	3	1～9
			センターラインのない右カーブの道幅の広い道路で被災者の運転する			

2009	4	12 ～ 13	2tトラックが道路右側に寄ってしまい、反対方向から来た大型トラックと正面衝突をし運転席ではさまれた。大型トラックの運転手は、軽傷を負った。	10101	17	10～ 29
2009	8	7 ～ 8	漁港内の浚渫作業のため、引船で起重機船を作業場所まで曳航し、起重機船を固定するため船外機船に係留ロープを渡したところ、船外機船が引船と起重機船の間に回り込み転覆、そのまま起重機船の下に潜り込んだ。船外機船に乗船していた2人のうち1人はすぐに海中より浮かび上がり救助されたものの被災者は浮かび上がらず、その後、海中を捜索していたダイバーにより起重機船の船底から発見された。	30199	18	30～ 49
2009	5	5 ～ 6	被災者は、重量4.9tの漁船に乗り当該船舶の船長と2人で、漁港から1.5km沖合でのホタテの座布団籠（ホタテの養殖のため、稚貝を入れるための籠）揚げ作業を行った後、帰港する途中に甲板より海中に転落し溺死した。なお、当該船舶には救命胴衣が備え付けられていたものの、災害発生時着用させられていなかった。	70201	10	1～9
2009	4	5 ～ 6	漁港の防波堤から約600m沖合で、被災者と事業主の2人で小型漁船（FRP船2.4t）に乗り、前日に仕掛けた刺し網を引き上げようとしたところ、右舷から大きな波をかぶり転覆し、海上へ投げ出された。事業主は救助されたが、被災者は行方不明となった。	70201	10	1～9
2009	2	23 ～ 24	スケトウダラ刺網漁のため、被災者含め5人が漁船（9.7t）に乗っていた。沖合で揚網作業がほぼ終了したころ、船体が徐々に右舷側へ傾き、波を受けてそのまま転覆した。転覆直前に全員が海に飛び込み、4人は僚船に救助されたが、被災者は行方不明となった。	70201	18	1～9
2008	9	9 ～ 10	被災者は、漁船でシラス漁の操業中に同船上で魚網の袋部を海水に浸けて洗っていた。その際、魚網が船のスクリューに巻き付いたため、魚網と被災者が引き込まれて海中に転落した。	70201	10	10～ 29
2008	5	14	自動車テストコースで四輪バギー車のエンジン性能評価走行中に高さ1.3mの小山を乗り越えジャンプした際、前輪から着地したため被災者	11502	3	1000 ～

		15	の身体が前方に投げ出された。			9999
2008	2	15 ～ 16	スキー場の第3リフト乗り場付近において、単独で圧雪車を動かそうとした被災者が、当該圧雪車の後部に付設しているスノー・ミル（ゲレンデの雪の塊を砕き敷きならす装置）に巻き込まれて死亡した。	40101	7	30～ 49
2008	1	5 ～ 6	被災者は漁船（排水量13.97t、7人乗船）で定置網漁を行っていた。定置網漁を終了して漁港に向かったが、被災者が乗船していないことに気付いたため、同船及び近海の漁船で捜索したところ、ブイにつかまっている被災者を発見して病院に搬送したが死亡した。	70201	1	1～9
2008	4	16 ～ 17	メバル刺網漁の網を海中に投網作業中、左舷船尾側に取り付けたロープを外すために甲板を移動していた時、甲板に置いてあるロープに左足をとられてロープとともに海中に転落した。操縦室にいた船主は、錨を投入するため被災者の作業場所まで行った時に海中に沈んでいる被災者を発見して引き上げたが死亡していた。	70201	10	1～9
2008	6	11 ～ 12	漁船（総トン数9.7t）で5人が操業中、船尾で籠を海に投入していた被災者の左足首に籠を繋ぐロープが絡まり漁船から海に転落して行方不明となった。	70201	10	1～9
2008	10	7 ～ 8	下草刈等の下見をするために境内を見回っていた際、敷地内にある軌道（斜面移動装置8人乗り）稼動中の軌道内に立ち込んだためカウンターウエイトにはさまれた。	170209	7	30～ 49
2008	8	7 ～ 8	花火大会の花火打上げ設備等設置工事において、花火打上げに使用する台船を会場近くの突堤に接岸させるために使用する小型曳き舟を曳航作業中、小型曳き舟が沈没して一人で乗船していた被災者がおぼれた。	30309	10	1～9
2008	7	21 ～ 22	公共コンテナターミナルに接岸された本船のデッキマンとして本船上で揚荷作業に従事していたが、デッキに積まれたコンテナのコーンが外れ難い障害があったので、当該コーンの取外し作業を行い、スプレッターに乗って一旦岸壁に降りた。その後、再度、本船に戻るため、無線機で同僚に連絡を入れた後、船側を移動中に海中に転落し	50202	10	100 ～ 299

			た。			
2008	1	11 ～ 12	ゴンドラ山頂駅のホームで乗客の降車に携わっていた際、乗客からゴンドラ内に手袋を忘れた旨の申し出を受けたため、ゴンドラ内を探していた際に搬器の自動ドアが閉まり身体がはさまれた状態でゴンドラが出発し、それに気付いた監視員が非常停止を作動させたが、宙づりのまま約10m進んだところで搬器が停止し、その直後に約12m下の地上積雪面に墜落して死亡した。	140309	1	100 ～ 299
2008	5	10 ～ 11	事業場に出勤後、赤玉土乾燥場で土の攪拌作業を農業用トラクターで行った後、市道をトラクターを運転してトラクター置き場へ向かっていたところ、路肩から40cm下の水田に転落し、トラクターが横転して下敷きになり死亡した。	10909	17	1～9
2008	7	11 ～ 12	海上での事故の取材のため、操縦士を含む4名が搭乗してヘリコプターにて飛行中に海上で消息不明となった。なお、後日被災者の遺体が発見された。	40103	18	1～9
2008	7	11 ～ 12	海上での事故の取材のため、操縦士を含む4名が搭乗してヘリコプターにて飛行中に海上で消息不明となった。なお、後日被災者の遺体が発見された。	40103	18	1～9
2008	5	15 ～ 16	作業員5名と共に岸壁に停泊中の起重機船の清掃作業を行っていたが、海面にうつ伏せで沈みかけているところを他の作業員が発見した。	150109	10	10～ 29
2008	4	3 ～ 4	湾内で養殖ホタテ貝を採取した漁船（5.1t、船長は事業場の代表者）が、乗組員8名（代表者を含む）を乗せたまま行方不明となり、災害発生当日、海上で1名、後日、海底に沈んでいた船内で1名、海中で4名、海上で2名が発見され、それぞれ死亡が確認された。	70209	18	1～9
2008	4	3 ～ 4	湾内で養殖ホタテ貝を採取した漁船（5.1t、船長は事業場の代表者）が、乗組員8名（代表者を含む）を乗せたまま行方不明となり、災害発生当日、海上で1名、後日、海底に沈んでいた船内で1名、海中で4名、	70209	18	1～9

			海上で2名が発見され、それぞれ死亡が確認された。			
2008	4	3 ～ 4	湾内で養殖ホタテ貝を採取した漁船（5.1t、船長は事業場の代表者）が、乗組員8名（代表者を含む）を乗せたまま行方不明となり、災害発生当日、海上で1名、後日、海底に沈んでいた船内で1名、海中で4名、海上で2名が発見され、それぞれ死亡が確認された。	70209	18	1～9
2008	4	3 ～ 4	湾内で養殖ホタテ貝を採取した漁船（5.1t、船長は事業場の代表者）が、乗組員8名（代表者を含む）を乗せたまま行方不明となり、災害発生当日、海上で1名、後日、海底に沈んでいた船内で1名、海中で4名、海上で2名が発見され、それぞれ死亡が確認された。	70209	18	1～9
2008	4	3 ～ 4	湾内で養殖ホタテ貝を採取した漁船（5.1t、船長は事業場の代表者）が、乗組員8名（代表者を含む）を乗せたまま行方不明となり、災害発生当日、海上で1名、後日、海底に沈んでいた船内で1名、海中で4名、海上で2名が発見され、それぞれ死亡が確認された。	70209	18	1～9
2008	4	3 ～ 4	湾内で養殖ホタテ貝を採取した漁船（5.1t、船長は事業場の代表者）が、乗組員8名（代表者を含む）を乗せたまま行方不明となり、災害発生当日、海上で1名、後日、海底に沈んでいた船内で1名、海中で4名、海上で2名が発見され、それぞれ死亡が確認された。	70209	18	1～9
2008	4	3 ～ 4	湾内で養殖ホタテ貝を採取した漁船（5.1t、船長は事業場の代表者）が、乗組員8名（代表者を含む）を乗せたまま行方不明となり、災害発生当日、海上で1名、後日、海底に沈んでいた船内で1名、海中で4名、海上で2名が発見され、それぞれ死亡が確認された。	70209	18	1～9
2007	2	23 ～ 24	国道上において、みかん選果場への水道引き込み工事に付随する道路舗装の復旧工事のため、道路の片側車線を封鎖し、警備員を配置して作業を行っていたところ、走行してきた軽自動車に当該警備員がはねられた。	170201	17	100 ～ 299
2007	8	8 ～ 9	漁船2隻が一つの網を引く船引き網漁を操業中、後方を横切った貨物船のスクリューが魚網に絡まり、引っ張られた漁船1隻が転覆、1名の乗組員が船内に閉じ込められ死亡した。	70201	10	1～9

2007	3	10 ～ 11	作業で使用する資材を台船上に取りに行く途中、岸壁から海に墜落した。	11501	10	30～ 49
2007	4	16 ～ 17	山小屋付近において、ヘリコプターによる人員輸送を実施中、悪天候により被災者操縦のヘリコプターが墜落した。	40103	18	10～ 29
2007	11	11 ～ 12	航空測量写真撮影を行っていた際、墜落した。	40103	18	1～9
2007	11	11 ～ 12	航空測量写真撮影を行っていた際、墜落した。	40103	18	1～9
2007	10	15 ～ 16	航空機の操縦免許取得希望者を対象とする体験飛行で、2人乗りヘリコプターに希望者1名を乗せて同機を操縦していたところ、墜落した。	40103	18	10～ 29
2007	4	16 ～ 17	山小屋の改築計画があり、現場視察を終え、ヘリコプターに乗り離陸した直後、ヘリコプターが墜落した。（小屋から約50m地点）	30201	18	100 ～ 299
2007	10	4 ～ 5	天馬船（漁船1.1t）を漁船（19t）でえい航した状態で定置網漁場に向かっていたところ、天馬船をけん引していたロープが切れるとともに、天馬船が転覆し、天馬船に乗っていた漁師1名が海に投げ出された。	70201	10	50～ 99
2007	7	21 ～ 22	被災者は埠頭2号岸壁に接岸しているコンテナ貨物船にて、コンテナを固縛するラッシング作業に従事していた。ラッシング作業準備として、デッキの岸壁側のコンテナに、ラッシングバーを立てかけて待機していたところ、ラッシングバーが揺れて岸壁側に倒れたため、被災者はバーの根元に股下を跳ね上げられ、高さ約7mのコンテナポスト	50202	1	100 ～ 299

			から岸壁に墜落した。			
2007	10	16 ～ 17	ドックで船舶修繕作業中、船尾網置き場のネットブルワーク（船尾楼の囲い）4枚目を撤去するため、5枚目のネットブルワークに取り付けられている歩道上で被災者がつり上げ作業の補助をしていたところ、5枚目のネットブルワークが倒壊し、被災者が約13m下のドック底部に墜落した。	11501	1	1～9
2007	6	15 ～ 16	山の緑化作業として、ヘリコプターで樹木の種子と栄養剤を散布する作業を行っていた。ヘリコプターは臨時ヘリポートから離陸し、5分ほどで戻る予定だったが連絡が取れなくなったため搜索したところ、ヘリポートから北に約1.5km離れた山林に墜落しているのが発見された。	40103	18	30～ 49
2007	12	10 ～ 11	年1回実施する耐空検査を整備場で行うため、機長と整備士1名が同乗して飛行したところ、機体の方向を制御する装置の調子が悪くなり、不時着を試みようとしたが、ヘリポートの手前約500m地点の調整池に墜落した。機長が死亡、整備士が重傷を負った。	40409	18	50～ 99
2007	8	10 ～ 11	ゴルフ場にて、乗用カートにてカート用道路を運転中、道路脇の立木に激突し、コースへ降りる階段（17段、340cm）下にカートとともに転落した。カートは階段下で発見され、被災者は階段上の道路で倒れているところを発見された。	140301	3	10～ 29
2007	8	2 ～ 3	被災者は、サンマ棒受け網漁船（9.7t）に4名で乗船、出港し、漁場にてサンマ漁を開始した。翌日、時化のため漁を中断し、帰港する際、左舷から受けた高波により転覆し、乗組員が海に投げ出され、2名が救助されたが被災者と船長が行方不明となり、現在まで発見に至っていない。なお、救命胴衣は着用していなかった。	70201	18	1～9
2007	11	10 ～ 11	被災者ら8名（含船長）は、漁船で午前6時頃、漁港を出港し、20分後に漁場において鮭定置網の撤去作業を開始した。その後、沖網部分の作業を終え、中網部分へ船を移動後に作業を開始しようとしたときに、被災者が行方不明だったことから搜索したところ、海面に浮い	70209	10	1～9

			ている被災者を僚船が発見し、帰港後、救急搬送したが死亡した。			
2007	11	12 ～ 13	被災者は、鮭定置漁業の船頭であり、出港前に船、港、沖の様子、風向、風速等を確認するため、港へ行った。その際、係留されている他の船の甲板を渡り、乗船予定の船を確認後、岸壁に戻る途中、他の船と乗船予定船の間で足を滑らせ海中に転落した。	70201	10	30～ 49
2007	5	8 ～ 9	湖内に係留していた作業連絡船（4.9 t）を漁港に移動するため、タグボート（15 t）により曳航作業中、曳航されていた連絡船が転覆し、連絡船に乗っていた2名の作業者が海に投げ出された。2名ともすぐに救出されたが1名は入院治療中に死亡した。	30111	18	100 ～ 299
2006	12	9 ～ 10	岬沖で蟹籠漁を船長以下4名で実施。蟹籠を海中に投入する作業を行っていたところ、その作業とは関係ない被災者が甲板から海上に転落した。	70201	1	1～9
2006	9	18 ～ 19	客を乗せた屋形船を運航し、線路の鉄橋をくぐる際、屋形船の屋根と鉄橋の橋桁との間に挟まれた。	40102	7	1～9
2006	11	9 ～ 10	船場から作業船に乗船し、川を下って整備工場へ向かう途中、船から川に墜落した。	170209	10	10～ 29
2006	7	5 ～ 6	被災者は漁を終え、帰港中、湾口付近において漁船（4.9 t、船長と2名乗り組み）が転覆。4時間後、船内から発見された。	70201	18	1～9
2006	3	15 ～ 16	近海において流し網漁の操業中、海に網を投入する作業中に網が絡まってしまったため、その復旧作業を行っていたとき、被災者は網に絡まり、網に巻き込まれそのまま網と一緒に海上に転落した。	70201	10	1～9
2006	10	18 ～ 19	被災者が、勤務終了後当該事業場が入居しているテナントビルの通用口のポーチ付近（当該ビルの敷地）で、横倒しになった車椅子に乗った状態で倒れているところを、被災者の退社後に退社した同僚が発見	150101	2	100 ～ 299

			した。			
2006	10	10 ～ 11	被災者がゴミ収集車の後方ステップ上に乗り、収集車をバック運転していたところ、後方ステップ上に乗っていた被災者が落下し、収集車にひかれた。	150102	6	1～9
2006	9	3 ～ 4	定置網での漁を終え、戻り支度をしていたときに、定置網付近に留めてあった仕事舟に繋いでいた僚船の2箇所中1箇所のロープがはずれたことから、被災者が仕事船から僚船に移ったところ、波および風にあおられたため、僚船が仕事船の方に寄っていき、仕事船の船首付近に被災者が激突した。	70201	7	10～ 29
2006	9	8 ～ 9	競輪場において、施設管理員である被災者が芝生の除草剤散布作業のためメインスタンドのあるホームストレート側入口からバンク内に入り、バックストレート側に行くために幅約14mのバンクを横切ろうとしたところ、バンクで練習中の競輪選手が運転する自転車（時速20～30km/h）に激突され強打した。	140309	6	100 ～ 299
2006	7	19 ～ 20	作業所の岸壁において、建設発生土（残土）を船にコンベア等を使用して積み込む作業を5名で行っていた。積み込み作業終了後、一旦全員で船の中心あたりの岸壁で待機していたが、被災者は船の出航準備のため、船尾側の係留用ロープを船尾からもっとも離れた係船曲柱から外すため一人で岸壁を移動していたところ、係留用ロープに激突された。	150102	6	10～ 29
2006	9	3 ～ 4	船長（事業主）と甲板員2名の計3名が夜から漁船でほっけのさし網漁を行い、漁を終え漁港に帰港途中、進路を誤って岸壁そばのテトラポットに衝突しその反動で甲板上にいた被災者が倒れ、揚網機の鋼材部分（高さ170cmの位置）に身体を打ちつけた。	70201	18	1～9
2006	5	14 ～ 15	船外機の付いた小型船舶（最大乗船人員3名）を1人で操船し、漁港湾外での海水取水（牡蠣漁許可に伴う水質検査提出用）作業を行い漁港に戻る途中、漁港防波堤の灯台付近で海中に転落した。	170209	10	1～9
		13	大雨による災害により橋梁の橋脚に漂着している流木の撤去を行う作			

2006	4	～	業中、小型ボートに搭乗し流木にロープをかける作業をしていたところ、ボートが転覆し下流に流された。	30107	10	10～ 29
2006	3	～	漁港南約1500m沖合で、作業を終え、帰港中であった漁船Aと同様な作業を終えて帰港中だった漁船Bが衝突し、Aの船首にいた被災者が海に転落し、スクリューに巻き込まれた。	70201	18	1～9
2006	2	～	顧客からの注文書に基づき、自社がリースするポンプやロット管等建築資材のチェックを行うため、資材置き場を歩行していた被災者が、資材を返却に場内にバックで侵入してきた運送会社の4トントラックの左後輪に巻きこまれた。	80409	7	1～9
2005	10	～	チャッカ船の操舵を自動にし、船上で係留ロープの取込みをしていたところ、チャッカ船が浮きクレーンと衝突して転覆し、その際に海中に投げ出された。	30111	10	30～ 49
2005	5	～	グライダー機で離陸後、高度80mまで上昇していたところ、突然失速し、機首部分から地上に墜落した。	120109	1	1～9
2005	6	～	船体ブロックを台船上で荷揚げする作業において、荷崩れ防止のために船体ブロックに固定溶接していたアングル材をを溶断する作業を行っていたところ海に転落した。	11501	10	1～9
2005	2	～	担当する工事現場を確認しに行くため市道を自転車で横断していた被災者が、右側から走行してきたトラックを追い越してきた乗用車にはねられた。	30203	17	10～ 29
2005	2	～	小型船（3トン）で出港した後、海中に転落した。	70209	10	1～9
2005	12	～	公道において、故障した乗用車を運搬するためにキャリヤカーに載せる作業を行っていたところ、キャリヤカーと故障車との間に挟まれた。	11701	7	10～ 29

2005	1	14 ～ 15	故障したボートを曳航するため、ボート後部で、曳航のためのロープの準備作業を行っていた時に、海に転落した。	80209	10	1～9
2005	9	16 ～ 17	船上で漁の準備中、海に転落した。	70201	10	10～ 29
2005	8	9 ～ 10	大型ボートを輸送するためボートの高さを計測していたところ、誤ってボートの縁より足を踏み外して地面に墜落した。	40301	1	50～ 99
2005	4	7 ～ 8	小型動力漁船に乗ってエビ刺し網を回収後の帰路、船外機に絡んだロープを外そうとした際、うねりを受けて船長が海中へ転落し、航行不能となった当該漁船が、その後、岩場に衝突し転覆し、船上の被災者らが海中へ転落した。	70201	18	1～9
2005	12	17 ～ 18	舢舺から岸壁への荷揚げ作業終了後、舢舺を曳航中に、海に転落した。	50209	10	10～ 29
2005	11	8 ～ 9	オートバイで走行中、信号機のない交差点で、右から進入してきた乗用車と出会い頭に衝突した。	30309	17	10～ 29
2005	11	11 ～ 12	カレイ刺網漁船に乗り組み、船尾で漁網を整理していたところ、海中に転落した。	70201	1	1～9
2005	10	11 ～ 12	漁船に乗船して操業中、魚が入った網を手繰り寄せていたときに、網の重さで船が傾いたため、網を切り、船を前進させ反動で体制を立て直そうとしたところ、切った網がスクリューに巻き付き、そのまま転覆した。	70201	18	1～9
		8	被災者は、魚の捕獲用定置網を設置するため乗船して1人で作業中、			

2005	8	～ 9	海に転落した。	70201	10	1～9
2004	1	14 ～ 15	養殖いかだで網の手入れを終え帰港中、漁船と衝突後転覆し、海に落ちた。	70209	18	1～9
2004	1	14 ～ 15	養殖いかだで網の手入れを終え帰港中、漁船と衝突後転覆し、海に落ちた。	70209	18	1～9
2004	6	9 ～ 10	単独で小型漁船を操作し、沖にある養殖場へ、空のいけすを曳航していたところ、船の動揺により海に転落した。	70209	10	10～ 29
2004	12	21 ～ 22	ヘリコプターによる遊覧飛行を終了し空港へ帰る途中に海の沖合に墜落した。	40103	18	10～ 29
2004	12	21 ～ 22	ヘリコプターによる遊覧飛行を終了し空港へ帰る途中に海の沖合に墜落した。	40103	18	10～ 29
2004	12	21 ～ 22	ヘリコプターによる遊覧飛行を終了し空港へ帰る途中に海の沖合に墜落した。	40103	18	10～ 29
2004	1	13 ～ 14	ごみ収集車を道路上に停車させ、ごみ収集作業を行おうとしたところ、停車していた位置が約5%の傾斜地であったため、その位置からごみ収集車が後退し、後方のブロック壁に衝突した。その際、被災者は、ごみ収集車と当該ブロック壁の間に挟まれた。	150102	17	1～9
2004	12	5 ～ 6	カキいかだでの作業を終え、約100m航行したところで、漁船前方でカキの網の針金を切断していた被災者が海中に転落した。	70209	10	10～ 29

2004	4	14 ～ 15	スクリューに漁網が絡まって航行不能になった漁船が他船に曳航されていたが、絡まった漁網を外そうとした被災者が、誤って漁網に手を絡ませ、水圧で回転していたスクリューに巻き取られた漁網と共に海中に引きずり込まれた。	70201	10	1～9
2004	10	11 ～ 12	曳き船を用いてはしけを曳航中、海中に転落しおぼれた。	50209	10	10～ 29
2004	3	10 ～ 11	はしけ係留場へ曳船を用いてはしけを曳航中、海中に転落して、おぼれた。	50202	10	10～ 29
2004	3	9 ～ 10	国道で発生した道路交通事故を上空から取材中のヘリコプターが、送電線に接触し約150m墜落した。	40103	18	1～9
2004	3	9 ～ 10	国道で発生した道路交通事故を上空から取材中のヘリコプターが、送電線に接触し約150m墜落した。	40103	18	1～9
2004	3	9 ～ 10	ヘリコプターに搭乗し、上空からカメラ取材していたところ、ヘリコプターが地面からの高さ150mの架空電路（77000V）の1本に接触し、機体の一部を損壊し、バランスを失って墜落した。	100101	18	30～ 49
2004	3	9 ～ 10	ヘリコプターに搭乗し、上空からカメラ取材していたところ、ヘリコプターが地面からの高さ150mの架空電路（77000V）の1本に接触し、機体の一部を損壊し、バランスを失って墜落した。	11101	18	100 ～ 299
2004	1	18 ～ 19	海上で貨物船の水先案内業務を行い、投錨し、停泊した貨物船からパイロットボートに移るため、貨物船からなわばしごを用いて下りていたところ、なわばしごの途中から海面に転落した。	170209	10	100 ～ 299
2004	1	10 ～	被災者3名が小型飛行機に乗り込み、航空記念写真を撮影した後、次の撮影場所に向かおうと上空を旋回中に失速し、電線を切断しながら墜	170209	18	1～9

		11	11 落し地上に激突した。			
2004	1	10 ～ 11	被災者3名が小型飛行機に乗り込み、航空記念写真を撮影した後、次の撮影場所に向かおうと上空を旋回中に失速し、電線を切断しながら墜落し地上に激突した。	40103	18	30～ 49
2004	1	10 ～ 11	被災者3名が小型飛行機に乗り込み、航空記念写真を撮影した後、次の撮影場所に向かおうと上空を旋回中に失速し、電線を切断しながら墜落し地上に激突した。	40103	18	30～ 49
2004	6	11 ～ 12	ヘリコプターが空港に着陸する際に同空港敷地内に墜落した。	40103	18	10～ 29
2004	8	0 ～ 1	ジェットコースターの始業点検作業において、試運転のため空車走行後、先頭車両に乗って走行していたところ、上り坂後の左カーブで座席から右側に振り落とされ、点検用の歩行帯の床面に激突した。	11502	1	100 ～ 299
2004	12	4 ～ 5	曳網漁船で漁場に向けて出港後まもなく、何らかの原因で海中に転落し、行方不明となった。	70201	10	1～9
2004	8	6 ～ 7	曳航される小型船舶で、作業箇所付近まで移動中、横波により当該船舶が転覆した。	70201	18	10～ 29
2003	9	10 ～ 11	飛行訓練のため、空港を離陸した小型飛行機が別の空港に着陸体勢に入ったときに、滑走路手前の南斜面に墜落し搭乗者3名が死亡した。	120109	18	300 ～ 499
2003	9	10 ～ 11	飛行訓練のため、空港を離陸した小型飛行機が別の空港に着陸体勢に入ったときに、滑走路手前の南斜面に墜落し搭乗者3名が死亡した。	120109	18	300 ～ 499
2003	8	1 ～	コンクリート打設のため、停泊中のコンクリートプラント船内で待機していた作業員が見当たらないことに同僚が気づいて探したところ、	10901	10	10～ 29

		2	港と船の渡し板ごと海面に浮上した遺体を発見した。			
2003	7	16 ～ 17	航空機訓練が終了して空港に帰投中に、エンジンの不具合が発生して墜落した。	120109	1	50～ 99
2003	6	10 ～ 11	ごみ収集車（2t）によるごみ収集作業で、ごみ収集口のシャッターにつかまり、荷台の縁に足を掛けたまま次の収集場所まで移動中に転落した。	150109	1	1～9
2003	4	18 ～ 19	ヘリコプターによる発電用燃料の搬送作業を終えて広場に着陸し、エンジンに付着した塩分を除去する作業を行っていたところ、強風が吹いたためヘリコプターが横転し、作業中の1人がメインローターに接触して50mほど飛ばされた。	40103	6	10～ 29
2003	4	13 ～ 14	造船所で、修繕・検査が終了した自動車運搬船の確認運転を海上で行っていたところ、ジャイロコンパスに不具合が生じたので修理するため、連絡船に乗り運搬船に接舷して乗船しようとしたときに海に転落した。	11501	10	1～9
2003	3	6 ～ 7	ワゴン車で国道を走行中、下り坂の左カーブでセンターラインを超えたため、対向車線のコンクリートミキサー車と衝突した。	10104	17	50～ 99
2003	3	10 ～ 11	米国製双発プロペラ機の整備状況を確認するため、1時間45分の予定で飛行場を離陸しテストフライトを行っていたところ、離陸後約20分後に山林に墜落した。	40103	18	1～9
2003	3	10 ～ 11	米国製双発プロペラ機の整備状況を確認するため、1時間45分の予定で飛行場を離陸しテストフライトを行っていたところ、離陸後約20分後に山林に墜落した。	40103	18	1～9
2003	1	4 ～ 5	自転車で朝刊の配達中、道路を右折したときに自転車ごと1.5mほど下の用水路に転落した。	80205	17	10～ 29

2002	12	11 ～ 12	4名がプレジャーボートに乗って湖の水深などの調査・測量中、風が強くなったので作業を中止して入江の岸に向かって走行しているときにプレジャーボートが転覆し、操縦者だけが船内に閉じ込められ死亡した。	170209	10	100 ～ 299
2002	9	13 ～ 14	定置網の端を船上クレーンに吊上げ、甲板上でホースを括り付けているボールローラーの支柱に跨って放水を行っていたときにボールローラーが動いたため、ボールローラーに跨っていた左足とローラーにとられた右足とで股間が裂けた状態となった。	70201	7	30～ 49
2002	11	5 ～ 6	新聞配達のため自転車で町道を走行中、町道の端にある用水路に自転車ごと転落し溺死した。	80205	17	10～ 29
2002	11	5 ～ 6	自転車で新聞配達中、誤って自転車ごと水路に転落し溺死した。	80205	17	10～ 29
2002	10	1 ～ 2	トラックに冷凍食品等を積んで配達先へ向かう途中、片側2車線道路の中央分離帯を越えて反対車線の電柱に衝突した。	80209	17	1～9
2002	8	17 ～ 18	ハバロフスク地方にある蟹加工工場へ蟹の検品作業を行うため、ハバロフスク空港から旅客機に乗ってアヤン空港に着陸直前に、パイロットが濃霧で高度を誤まって空港近くの岸壁に激突し、乗員（3人）、乗客（14人）全員が死亡した。	170209	18	1～9
2002	8	9 ～ 10	出荷栈橋に係留していた貨物船（バラセメント専用船）の甲板上に設けられた集塵室屋上で、粉状セメントを栈橋から船倉内に送りこむためダクト位置の調整を行っていて集塵室屋上端部から約4m下の甲板へ墜落した。	50202	1	30～ 49
2002	3	7 ～ 8	台船を曳航するため、汽船に乗り台船に向かう途中で後方からきた船に追突され、汽船が沈没して乗船していた2名が溺死した。	11501	18	1～9

2002	3	7 ～ 8	台船を曳航するため、汽船に乗り台船に向かう途中で後方からきた船に追突され、汽船が沈没して乗船していた2名が溺死した。	170209	18	1～9
2002	8	16 ～ 17	海岸に投入する捨石を積込むため、起重機船積込場に接岸して船を固定させる係船作業を行い、船に戻るため岸壁から右足を船に掛けたときに、バランスを崩して転落し岸壁防舷材と船の緩衝用タイヤとの間に頭部、胸部を挟まれた。	30111	7	1～9
2002	7	13 ～ 14	岸壁に接岸した貨物運搬船の荷揚げ作業中、船倉に転落した。	50202	1	10～ 29
2002	7	15 ～ 16	個人所有のヘリコプターのエンジン始動が悪いとの連絡を受け2人で故障探求をしたところ、バッテリーが弱いことが判明したのでバッテリー交換のため、整備工場へヘリコプターで飛び着陸直前に墜落炎上し2人が死亡した。	40103	18	30～ 49
2002	7	0 ～ 1	ゴルフ場コース内のリフトカー（ケーブルカー）の軌道内において草取り作業をしていたところ、キャディが気付かずにリフトカーに客を乗せて上昇させたため、リフトカーとワイヤロープでつながれたバランスウエイト台車が下降してきて轢かれた。	140301	6	100 ～ 299
2002	4	9 ～ 10	船のエンジン修理を行う前にエンジンの不具合を確認するため、漁港沖合い500m付近で漁船の試運転中に船から海に墜落しおぼれた。	11702	10	1～9
2002	1	14 ～ 15	岸壁に接岸していた舢舨（全長33.5m、幅7.8m 積載量400 t）に鋼管約64 t を積み終えた後、舢舨の船長が単独で曳航前の準備を行っていて海に墜落した。	50209	10	10～ 29
2002	1	1 ～ 2	スケソウダラ刺し網漁船が僚船14隻とともに漁港を出港して操業中、時化が激しくなって一隻が転覆し、3人の乗組員が行方不明となった。	70201	18	1～9

2002	1	1 ～ 2	スケソウダラ刺し網漁船が僚船14隻とともに漁港を出港して操業中、時化が激しくなって一隻が転覆し、3人の乗組員が行方不明となった。	70201	18	1～9
2002	1	1 ～ 2	スケソウダラ刺し網漁船が僚船14隻とともに漁港を出港して操業中、時化が激しくなって一隻が転覆し、3人の乗組員が行方不明となった。	70201	18	1～9
2002	3	11 ～ 12	空港埋立現場で起重機船から海に転落し溺死した。	30111	10	10～ 29
2002	1	10 ～ 11	港の改修工事において、浚渫した土砂を沖合10kmの捨場に運搬するため、土砂運搬船を引船で曳航中に土砂運搬船が転覆した。	30111	18	50～ 99
2002	3	14 ～ 15	航空機の教官が訓練生と二人乗り単発プロペラ機で離陸し、きりもみ状の飛行を体験する「スピン訓練」を実施していて、防風林内に水平状態で墜落した。	120109	18	10～ 29
2001	12	6 ～ 7	自転車で朝刊の配達中、十字路を左折したとき柵の無い2m下の排水溝へ転落した。	80205	17	1～9
2001	6	22 ～ 23	えびかご漁のため漁場へ向け港を出港し、翌日の午前0時頃漁場に到着したので操業準備の指示を乗組員に出したところ1人の姿が見えないので船内を捜索したが発見できず、その後、漁場及び航行海域を捜索したところ、沖合において所持品を発見したが当人は発見できなかった。	70201	1	1～9
2001	12	0 ～ 1	商品配達のためトラックで国道を走行中、右折するため停車したときに後続のトラックに衝突されて反対車線に押し出され、対向のトラックに側面衝突された。	80209	17	50～ 99
		5	ホタテ採取漁のため漁船(14t、6名乗船)で漁港を出て間もなく、船尾に			50～

2001	10	6	備え付けられたトイレに行ったときに海に落ち、現場付近の海から遺体で収容された。	70201	10	99
2001	8	8 ~ 9	商品の配送で国道を走行中、道路建設工事現場へ向かう普通トラック(ラインマーカー車)と正面衝突した。	80209	17	1~9
2001	5	2 ~ 3	6. 5t漁船で船長と2人で定置網の網起こし作業中、船尾側で網起こし用ロープを緩めていた者がいないのに船長が気づき海上保安庁に捜索してもらったところ、ダイバーが水深52mの海底で発見した。	70201	1	10~ 29
2001	8	19 ~ 20	船に積み込まれたタンクローリーをワイヤーで固定しているときに、揚貨装置でパワーショベルを吊り上げて船が大きく傾き固定済みクレーン車のワイヤークリップがはずれ、クレーン車が固定済みタンクローリー車に衝突したため、その衝撃で動いたタンクローリー車と本船手すりとの間に挟まれた。	50202	7	10~ 29
2001	8	9 ~ 10	セスナ機で航空写真を撮影するため、自営カメラマン2名を乗せて飛行中、何らかのトラブルにより水田に墜落して機体が炎上し3名全員が死亡した。	40103	18	1~9
2001	3	11 ~ 12	カニかご漁の操業を終えて帰港途中の漁船が、防波堤から南南西の沖合い約100mの海域で激しい高波を受けたとき、船首で見張り業務中の者が海中に転落し行方不明になった。	70201	10	1~9
2001	5	14 ~ 15	停泊中の船の整備作業を単独で行っていた作業員が昼食時になっても戻らないため船主が船に出向いたところ、船と岸壁との間の海面に浮いているのを発見した。	70201	10	10~ 29
2001	4	0 ~ 1	船長を含む5名が乗船し仕掛けていた定置網交換のため網を引き上げているときに、船がバランスを崩して転覆し乗組員全員が海に投げ出され、間もなく1名が海底で発見された。	70201	10	1~9
2001	5	11	上空約200mで訓練飛行中のヘリコプターとセスナ機が接触して、2機とも墜落し、搭乗していた6名全員が死亡した。(6名のうち他は訓練生	40103	18	300 ~

		12	労働者は3名)			499
2001	5	11 ～ 12	上空約200mで訓練飛行中のヘリコプターとセスナ機が接触して、2機とも墜落し、搭乗していた6名全員が死亡した。(6名のうち他は訓練生労働者は3名)	40103	18	300 ～ 499
2001	5	11 ～ 12	上空約200mで訓練飛行中のヘリコプターとセスナ機が接触して、2機とも墜落し、搭乗していた6名全員が死亡した。(6名のうち他は訓練生労働者は3名)	40103	18	300 ～ 499
2001	4	21 ～ 22	曳航ボートで穀類(約250t)を積載した舢舨(はしけ)を曳航中に、舢舨に乗っていた者が海上に墜落して、溺死した。	50201	1	50～ 99
2001	3	15 ～ 16	営業のため乗用車で走行中、左前輪がパンクしたのでパンク修理を車外でを行っていたときに、後続車に追突された。	10701	17	30～ 49
2001	3	13 ～ 14	顧客の操縦するパイパー式単発飛行機に同乗して飛行中、山の斜面に衝突した。	40103	18	50～ 99
2001	1	11 ～ 12	海上に係留中の船に食料品を運ぶため船長ら5名とともに出港し、到着後、右舷中央部から降ろされた昇降用のタラップに移るため船首に立っていたときに、大波を受け海へ転落した。	80101	10	30～ 49
2001	1	15 ～ 16	港から港に同僚と2名で機材センターの台船を曳航し、その後、近くに係留していた別の台船の除雪作業を行うため曳航船へ道具を取りに行ったときに誤って海中に転落した。	11701	10	10～ 29
2000	4	8 ～ 9	漁協ドックにおいて、船を海中に降ろすため船台下のレールなどの点検作業中に、突然船台に乗っていた船が倒れ、コンクリートの床面と船との間に上半身を挟まれた。	170209	5	1～9
2000	1	22 ～	ピザの配達のためミニバイク(50CC三輪)で県道を走行中、右折したときに直進してきた普通乗用車と衝突し転倒した。	80209	17	10～ 29

		23				
2000	12	9 ～ 10	砂利船の船底で鉄板取り付け作業をしていたときに、船底内にあった砂利運搬機の試運転の巻上げ装置が作動したため砂利運搬機のバケツト倒れ、その下敷きになった。	11501	6	30～ 49
2000	11	9 ～ 10	沖合の操業が終了し帰航中に、船から落ちかけていた袋網を引き上げようとして海に転落した。	70201	10	1～9
2000	11	5 ～ 6	新聞配達のため自転車で走行中、用水路(幅60cm、深さ80cm、水深10cm)に転落した。	80205	17	10～ 29
2000	7	20 ～ 21	監視員として宿泊客の夜間観光のための遊覧船に乗船していて湖を約600m航行した地点で乗船口より湖に転落し、溺死した。	140101	10	50～ 99
2000	11	14 ～ 15	会社所有ヘリコプターに6名搭乗し、2度目の飛行性能試験(ロータ失速特性研究)のため高度4000フィートを飛行中、破裂音がした後にテールロータが故障して左旋回が不能となり、徐々に高度が下り墜落した。	11509	18	1000 ～ 9999
2000	11	8 ～ 9	ヘリコプター格納庫で燃料を補給して航空イベントに参加するため離陸し、水平距離で約500mほど飛行したところで突然失速し近くのえん堤に墜落し、パイロットと同乗の営業職員が死亡した。	120109	18	10～ 29
2000	6	10 ～ 11	定期検査等のためにドックに入渠していた貨物船の4番船倉のホールド(船底)で倒れているのを発見された。(右心房破裂による出血死)	11501	1	1～9
2000	2	15 ～ 16	工場移転のため、河岸に舁を係留しこれを一時的な荷の保管場所として利用していたが、その舁内で作業指示を待っていた作業員が海中で死亡していた。	50202	10	1～9
2000	11	8 ～	ヘリコプター格納庫で燃料を補給して航空イベントに参加するため離陸し、水平距離で約500mほど飛行したところで突然失速し近くのえん	120109	18	10～ 29

		9	堤に墜落し、パイロットと同乗の営業職員が死亡した。			
2000	9	22 ～ 23	浚渫工事の作業を終えて午後6時ごろ母船で夕食を取り母船内の居室にひきあげ就寝したが、翌朝食事の時間になっても食堂に来ないため、船内などを捜したが見つからず、6日後に現場から約8km下流で水死体で発見された。	30107	10	10～ 29
2000	3	15 ～ 16	河川内の接触事故を防止する警戒船で、強風で流された船を所定の位置に戻すため碇を巻き上げていたところ碇をつなぐロープが切断したため反動でバランスを崩し水中に転落した。	40102	10	1～9
2000	3	12 ～ 13	漁港沖約3キロメートル付近の漁船の船尾において、地引き網を海中に投げ入れて網に付着した泥などを海水で洗い流す作業をしていたところ、網に足を取られて海中に転落し溺れた。	70201	10	1～9
2000	3	14 ～ 15	漁船が流水を避けながら帰港途中、船上で網から魚を外す作業を行っていた者が暗礁に乗り上げた衝撃で海中に転落し、翌日遺体で発見された。	70201	10	1～9
1999	3	13 ～ 14	セスナ機で山腹に墜落した。	40103	18	10～ 29
1999	7	11 ～ 12	港に新設される航路の安全確保のため、海底にある磁気物体の引き上げ作業を潜水作業で行っていたところ、船のスクリューにエアーストスが絡まり頭部を負傷した。	30309	7	1～9
1999	3	7 ～ 8	信号の手前を自転車で横断中、走行してきた貨物自動車に跳ねられて約15mとばされた。	80205	17	50～ 99
1999	12	7 ～ 8	沖合い約10キロメートルの海上において、底引き網漁船(9.9トン)で操業中、船首で魚の選別準備作業をしていて冷たい海へ転落した。	70201	1	1～9
		7	自転車で朝刊を配達中、台風による強風であおられ転倒し頭部を打撲			30～

1999	9	8	した。	80205	2	49
1999	10	6 7	小型定置網漁船(5人乗り込み)で出港して約10分後、船尾にいた者が行方不明となったので、海上保安庁が捜索したところ、海上で発見した者が死亡した。	70201	10	1~9
1999	10	9 10	漁船でシラス漁をしていたときに、海中へ網を投げようとしてロープが足に絡まり海中に転落した。	70201	10	1~9
1999	10	5 6	国道の交差点で、赤信号のため停車していたトラック(10t)に、4トントラックで追突した。	40301	17	10~ 29
1999	10	8 9	漁船で沖合約500m付近での最初の漁を終え次の漁場へ航行中に、船尾付近で3人が網の先端部分を流しながら清掃していたところ、網が勢いあまって海へ出たため網に乗って作業していた3人のうち2名が海へ転落し、その内1名が肺水腫で死亡した。	70201	10	10~ 29
1999	6	8 9	巡回介護サービスのケア宅から次のケア宅へ自転車で移動中、歩道から渋滞している車と車の間をすり抜けたところ、道路を直進してきた大型自動二輪車(オートバイ)に跳ねられ、全身を強打した。	130109	17	10~ 29
1999	6	6 7	自転車で新聞配達中、交差点で道路を横断しようとしたところへ、左方から直進してきた普通乗用車の側面に衝突して跳ね飛ばされた。	80205	17	10~ 29
1999	5	11 12	祭に出店するためオートバイで国道を走行中、左のゆるいカーブを曲がり切れずに対向車線にはみ出し、走行してきたバスと衝突した。	80209	17	1~9
1999	3	0 1	護岸災害復旧工事のための測量を行うため、小形木船に乗船して川の水深を測っていたときに船が転覆した。	170209	10	1~9

1999	3	8 ～ 9	ゴルフ場でのバンカーならし作業車で管理道路を走行していたが、 ティーグラウンドの横で自ら乗っていた作業車の下敷きになった。	140301	7	100 ～ 299
1999	3	8 ～ 9	シラス漁を終え次の漁場へ移動途中、網を海に流し網の清掃を行って いたときに、網に足が絡まり網と一緒に海中へ転落し溺れた。	70201	10	1～9
1999	3	14 ～ 15	小型飛行機に機長のほかにエンジンのデータ収集のため2名が乗り、飛 行場を飛び立ったところエンジンが不調のため不時着するとの連絡後 消息不明となり、その後全員が遺体で収容された。	120109	18	30～ 49
1999	3	14 ～ 15	小型飛行機に機長のほかにエンジンのデータ収集のため2名が乗り、飛 行場を飛び立ったところエンジンが不調のため不時着するとの連絡後 消息不明となり、その後全員が遺体で収容された。	120109	18	1000 ～ 9999
1999	3	14 ～ 15	小型飛行機に機長のほかにエンジンのデータ収集のため2名が乗り、飛 行場を飛び立ったところエンジンが不調のため不時着するとの連絡後 消息不明となり、その後全員が遺体で収容された。	120109	18	1000 ～ 9999
1999	1	10 ～ 11	カレイ刺網漁を終え港に帰港途中、横波を受け転覆し2名が海に投げ出 され、1名が海底より発見されたが残り1名は行方不明。	70201	18	1～9
1999	1	13 ～ 14	埠頭において舢舨に石材の荷を積み込み、引き船で岸壁に曳航している ときに、舢舨の船長が見当たらなかったので捜索をしたところ、溺死し ていた。	50202	10	1～9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_02.html